WASON
HQ
1104
J74+
Jan 12
1889
No. 14-

女學雜誌

一冊六錢　版權所有

當府内無郵税　各土曜日出版

明治廿二年(第百四拾四號)一月十二日發

社説
女子と宗教第二(宗教を信ずるの功能)

論説
飲食物の説附酒と烟草の害(其二)(津田仙)○海外拾藻第二(田邨武治)

批評
佛教の眼中に女性なるものなし○婦人に選擧被選擧權を與ふるの可否

報話
細君○詩選、歌集、問錄といふものゝ事○一枝な切らば○島田三郎君通信(英國婦人改進黨大會の景況)○アンヂダ、ラマバイと米國新聞記者某との問答筆記○萬國赤十字社大會の感(六)(石黒忠悳)

小説
夢ならぬ夢

佳傳
法學大家アウスチン氏夫人(其二)

寄書
女子の義務を論ず(有田てい子)

新報
福は外、鬼は外○結婚取急ぎの理由を論ず○狂氣する勿れ○同志社義捐金○其他數件

外報
ビーチヤルストウ○女子理學研究○女子改進會○佛國の商店女○米國次回の交際女王

小供談
金の卵を產む鵞鳥

附錄
百人一首講義(第八回)○經濟學第三章(財本)○婚姻說○女學讀本

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

HQ 1104 J74

Jan 12 1889 No. 144

女學雜誌

一冊六錢

當府内無郵税

版權所有

各土曜日出版

明治廿二年 (第百四拾四號) 一月十二日發

社説

女子と宗教第二 (宗教を信ずるの功能)

論説

飲食物の説附酒と烟草の害 (其二)(津田仙) ○海外拾穗第二 (田部武治)

批評

佛教の眼中に女性なるものなし ○婦人に選擧被選擧權を與ふるの可否

叢話

細君○詩選、歌集、馬鐙と云ふものゝ事○一枝を切らば○島田三郎君通信 (英國婦人改進黨大會の景況)○ブンデダ、ラマバイと米國新聞記者某との問答筆記 ○萬國赤十字社大會の概 (六)(石黒忠悳)

小説

夢ならぬ夢

佳傳

法學大家アウスチン氏夫人 (其二)

寄書

女子の義務を論ず (有田てい子)

新報

禍は外、鬼は外 ○結婚取急ぎの理由を論ず○狂氣する勿れ ○同志社義捐金○其他數件

外報

ビーチアルストウ○女子理學研究 ○女子改進會○佛國の商店女○米國次回の交際女王

小供談

金の卵を産む鵞鳥

附録

百人一首講義 (第八回) ○經濟學第三章 (財本) ○婚姻說○女學節本

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 144. JANUARY 12TH, 1889.

EDITORIAL:— Woman and Religion.

LEADING ARTICLES:— Food and Drink. (Tobacco and Alcohol). by Mr. S. Tsuda. Picking While at Abroad. by Mr. T. Tamura.

CRITICAL NOTES:— "No Woman in the Eyes of the Budhists." "May Women be Elected and Given the Right of Election?"

MISCELLANIES:— "The Wife." "Collection of Poems (Jap. and Chi.) and of Pictures." "If a Branch is Cut off." "A Letter from Mr. Shimada." "An Intervew." "At the Great conference of the Red Cross Society."

NOVELS:— "Fantacy."

BIOGRAPHIES:— Mrs. Sarah Austen.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

元と通信女學のみを購讀わりたる御方には以后女學雜誌を配達いたす儀に候

⑭珊瑚の珠　（第九十回）

孝子曰貴きとなく賤となく女の何とも物にさしいらへして心得たるさましたるはかならず二心なる者なりはづかしきとにこそなべてむかしより女ははかなきものにておとこの色々いひつるには百人は百人ながらいやしき心いで來てながきうき名をながすこの趣に心をつけて骨は粉にくだきしゝむらは泥になるとも名を思はん女は道を守るべき事あり人れ我がこのむ方にあやまりありといふとをしるべし不好方にはあやまりれなきものあり。

穴穗部の皇女曰くまよひに深き者は吉といへば心を心よくし惡といへば心を心惡くすよしあしは我に有て人にあらず人の言葉をかり用ふるとなし。

漢書曰婦人貌不㆓修飾㆒不㆑見㆓君父㆒婦人はかんざし裝束して身を飾り形を假粧して君父に見ゆるが禮義なり假粧せざれば不敬なるゆへに不㆑可㆑見と也。

王蠋曰忠臣不㆑仕㆓二君㆒貞女不㆑更㆓二夫㆒貞正の婦女はふたゝび嫁し二夫に見るを不義として恥るあり故に身命を捨ても貞信の道を守つて二度夫の席を不㆑觸あり又是夫は天の道に法り女は地の道に法る地道は貞因にして不㆑差也。

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第百四十四號 明治二十二年一月十二日發兌

社説

○女學及び女子教育、

第一　女子と宗教。

一　女子宗教を信ずるの効能。

女子の氣質は喩ふるに猶ほ池水の如くなるか、之を望めば水光明媚にして鏡に似たり、鴛鴦は快ろよく之に映じ、水草は耻づる所ろなく寫るなり、然れども時あつて一陣の風之を打てば波乍ち起つて水面惣べて碎かる、又若し一塊の石を投ずれば水紋頓かに動搖して池表悉く破る、偶ま又た一團の色を流せば異色奔延して白面忽焉として變ずべし、想ふに女子の氣質は猶ほ如此くなるなり。遙かに望めば玉の如く花の如しと雖ども、近づいてつら／＼之を拜見すれば中々夜刄に似たる所ろ多し、即はち極めて染り易く、移り易く、動き易く、流れ易く、變り易く、疑がひ易く、迷ひ易し、而して其の思ひは恰かも貧乏神に宿られたるが如く、極めて心配すると多く、鬱すると多く、憂ふると多く、痛むと多く、歎くと多し、一言するに眞とに定まりなき氣の毒なる性質にてはなる也。」

然りと雖ども一朝彼の池堤の東端を割つて其水を一方の低くきに流すとあらんには、水は泡立ち反り逆卷き登つて奔躍して流れ下るべし、此時に當つて一陣の風之に向ひ打つとも最早や之を止むると能はず、況んや一塊の石の之に逆らふ、一團の色の之を變ぜんとする、抑も彼に何程の影響かあらんや、女子の氣質の一旦其の定まる所ろに歸するや亦た即はち此の如くなるなり。彼れ若し一と度び其の信を置く所ろの者を發見したるか、或ひは又た其の愛を寄する所ろの者を發見したるときは、滿腔の心情一時に茲に奔入し、執着信愛の思ひ、切るとも切れず、其の固きと、鐵鎖を以て之を繫ぎたるが如くなり。此に到りては、元と彼の染り易かりし氣質は既に悉く此の如くに染り了したるが故に亦た他に染まるべきの餘地を存せず、元と彼の移り易かりし氣質は既に悉く此の如くに移り了したるが故に亦た改めて他に移るべきの餘地を存せず、元と彼の動き易かりし氣質は既に悉とく此の如くに動き了したるが故に之より亦た更らに他に動くべきの餘地を存せず、元と彼れの流れ易かりし變り易かりし疑がひ易かりし迷ひ易かりし氣質は皆な是れ其の確然たる基ひを執て悉く安定し最早再たび流れんとし變はらんとし疑はんとし迷はんとすると

なし、既に此如くなれば彼が心配性も大ひに氣樂になり、氣欝性も大ひに爽快になり、憂ふるとも自づから少なくなり、痛むとも自づから輕ろくなり、歎くとも亦た自然に淺くなるべし。我國の諺に云く、女子は意中の人を得て初めて强よしと、ユーゴ云く女子に於ては弱かりしなり、母と爲りて後ち强くなれりと、皆な此の理を云ふ。

左れば信愛する所ろの者を有せざる女子は皆實に優柔なる處女の如し、既に其の信愛する所ろの者を得たる女子は恰かも是れ脫兎に似たり、其の前後の有様の相ひ異れるは實に驚ろくべきなり。故に吾人は彼の傷める葦煙れる麻よりも尙ほ可弱きの人を何人なりやと問はれなば之れを女性なりと答ふべし、然れども亦た殘酷冷虐にして血を見て寒笑するの人を何人なりやと問はれなば則はち多くは之れ女性なりと答へざるを得ず。古來妻を輕ろんじて之を殺ろしたるの夫固より少なからず、然れども之を愛しつゝ能く之を殺ろしたるものは少なし、但だよく夫を敬まい、夫を愛しつゝ、然も斷然として遂に能く之を殺ろしたるものは實に婦人にてあるなり。婦人の心中に水あり、淡くして寒むし、然れども一旦熱するときは爆發して萬物を破裂するに足る、婦人の心中に遊兵あり、亂れて參々伍々たり、然ども一朝事あるときは相合して一團結となる固きと鐵の如し。嗚呼尤も弱きものは女なり、然れども尤も强きものも亦た女なり、尤も愛らしきものは女なり、然れ共尤も怖ろしきものも亦女なり、彼は虫の呻めくを見て泣けり、然れども亦た獅子の哮叫するを撲てり、彼は一滴の血を見て倒れたり、然れども亦た斷頭塲上に笑ひたり、氷に非ずんば火、蜜に非ずんば毒、握手に非ずんば劍、接吻に非ずんば拳骨、これ女性に二人の主、前後の容あるが故なり。

(二)

女子は其の信愛する所のものゝ有無によりて此の如くに氣質を異にするなり、之れ女性の爲めみ惜しむべきに似て反つて是れ女性の尤も尊むべき處ろたり、彼が温密なる愛情、執着なる信切は、皆な此移り易く變り易く憂ひ多く歎き多き氣質の一變して而して大ひに定まりたるに由る者なり、左れば其の氣質の移り易く變り易きを悲しまず又た其の憂ひ多く歎き多きを氣の毒とせず、但だ其の信愛の宜しきに定まつて、以て氣質の善良なる方向に一變せんとを切望するにある耳、賊婦が心を定めたるも一種の信仰に由るなり、毒婦が心を極めたるも一種の愛情に由るなり、之れ假令ひ同じく信愛に由りて彼が氣質を固定し得たるものとするも其の如此き固定の容

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とぶに足らざるは固より言ふを要せざるべし、故に吾人は女子の必らず其の信愛する所ろを定めんことを希望す、然れども其の信愛する所ろの者の必らず宜しからんことを希望するや更らに切なり、別言するに吾人は女子の必らず其の氣質を一變せんことを希望す、然れども其の一變する所ろの方向の必らず宜しからんことを希望するや更らに切なり。

此に至りて女子が宗教を信ずるの効能の莫大なることを知るなり。抑も宗教とは己に優りたる大能力を信愛し、善を崇み不善を惡み、冥々の賞罰嚴そかなることを認ため、專ぱら現在の榮枯に掛念せずして深く未來の冥福を祈るに在り、宗教に百種百派ありて說く所ろ各々異なると雖ども、其窮極する所ろの大主旨は大率ね上述する所ろに出でず、故に如何なる宗教と雖ども、之を其の宗教の尤も流行したる時代に於て鑑がみるに、之を信ずるものゝ効能は信ぜざるものに優ること遙かに万々なるが如し。況んや既に偶像を禮拜せずして、一種の道と云ひ、天と云ひ、佛と云ひ、上帝と云ふが如き、凡そ無形無上の靈能力を信奉する所ろの宗教に至りては、其の効能の及ぶ所ろ更に莫大なるが如し、今吾人は啻に女子が之を信ずるの上に就てのみ考ふるに、今の女子は大率ね目前接近の事件に於て心配苦慮するものなるが故に、之をして遙々たる無形無上の靈界に思を執着せしむるは既に千万の効能を生ずるの源となるもの也、應對の温かなると冷やかなると、顏附の笑ひたると顰みたると、目附の快よきと劔呑なると、息氣づかひの切迫したると緩やかなるとによりて、乍ち相手の心中を評し、心中のみならず全躰の人物を評し、之より尾に尾を着け、頭らに頭らを加へて、所云る灰吹より蛇を登らしむるの趣きは多く女子の社界に存することあり、之を以て女子は互ひに信ずること無く、女子に尤も信じ合ふ所ろの朋友あるなく、あるも決して久しきに續くことなし、眞に是れ憫然至極なると思はるゝが、要するに其病源は彼等が目前接近の事件にのみ頓着し、此う思はれ様か、彼あ言はれようか、此う思つたらう、彼あ言つたらうと邪推し心配し、くよ〳〵ぐち〳〵として一時も安心安慮の思ひなきに由るなり。此時に當りて若し無形の靈能力を信じ、假令ひ人間は妾が意中を辨ぜずと云へども、彼の在まさゞる所ろなく、見ざる所ろなき無形無上の大神明々として玆に鑑み玉ふありと信ずるときは、其安きこと幾千ぞや、之よりして人の一褒一貶は敢て顧みるに足らずと爲す、況んや其の顏附をや、況んや其の目附をや、人は其

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

言ふが儘に任す、妾は只だ是れのみと、而して如此く行ふ所ろの妾に向つては人の言ふ所ろは只だ之を褒むるにある耳、如此くして妾は自然に善を行ひ、人は自然に之を賞す、人事極めて圓滑にして女海の波甚だ穩やかならん。

然れども女子が宗教を信ずるの効能は啻に如此き小事にのみ存せず、更らに非常の大効能ある也、蓋し彼が移り易く變り易きの氣質は之を其の移り易く變り易きが儘にして放任せば大害ありて寸益あるなし、然るに一旦之に信愛する所を得せしめ、而して更らに其の尤も宜しき所ろに信愛するを得せしむるときは彼が移り易く變り易かりし氣質は忽焉一豹變して尤も熱心尤も温密なる執着者となり、以て善良の道に執着し、其の確き信仰に勵まされて以て夫を勵まし子を勵まし全社界を勵ますに至らば、女子が世上に盡し得るの功業は實に非常なりと云ふべし。吾人は或る宗教社界に於て女子が實に如此き功業を爲しつゝあるを見るなり、彼等にして若し此の宗教を信ぜざりしならば依然として漂々たる浮れ女ありしならん、一旦之を信じ一朝之に熱心となりて則ち古今現に能く如此き功業を爲すを見れば、女子が宗教を信ずるの効能莫大なるを見るなり、而して東西の女子古今の婦人之を信じて若し其の効能に一樣の利益あるを見ば、女子が如此き宗教を信ずるの當に自然なるべきを知り、更らに其の當に信ぜざる可らざるを知るべきものなり。

論説

○飲食物の説附酒と煙草の害（其二）　津田仙述

左ばとて只高價の食物が決して宜と云ふ論でなひ、又甘ひ食物が宜と云論でもない、即ち滋養分の多い物で能く消化する物を以て其子供を育て其家内を養ふとが誠に大切なると思ます、其故是迄の如く只釜で飯を炊き鍋で汁を烹のみならず、總て種々の食物を交て致さなければなりません、然れども是れは大層繁雜な樣で先づストーブなどから備へ付けなければ出來ません樣だが、併し他に手輕く出來る仕方があります、夫はブリツキで拵らへた皿の樣なものを置き、同じくブリツキで箱の如き者を造り、上より覆ひ上下より火を掛ければ、カステラやパンの樣な者を自在に拵へる事が出來ます、ツーして膨れる性質の者（即ちイースト）を入れて焼きますれば、最とも善い食物が出來て、菓子屋から菓子を買ふより餘程簡

便に參ります、又食物ハ總べて柔かにしたから夫で善いと云ふものであい、茶漬飯などは口から直ぐに胃に這入り粘液を混ずるとなき故に醫者が惡いと申します、總べてパンの樣に膨れて居ります者は之を食ひますときに、唾液が浸み込んで參りますから、消化に宜しくある、西洋食事は、是非三度が三度に此樣な物を食しますから宜しいので、蕎麥粉や麵粉の樣な者も斯う云ふ樣に色々と製法がありますから、之を御研究なさつたら宜からうと思ひます、又日本國中でハ大概米と麥とを以て飯に炊て喰でて居りますが、此外に穀物で最も善い物があります、其の米に代はる所の穀物は玉蜀黍であります、是れは私が毎年作つて食べて居りますが、其養分は米よりは餘程澤山であります、玉蜀黍の中には養分になる蛋白質が百分の十一含んで居ります、米には此養分が百分の五、八で御座います、糯米は五、一三で御座います、此の玉蜀黍は人間の滋養にある成分が米の一倍餘で五、八と十一の割合で御座います、ソーして玉蜀黍は米と違つて同樣の地積より餘計取れます、米は大概一人一日の食料に一坪に出來たるものを食する割合で御座います、夫れて玉蜀黍の方ハ何位出來るかあれば、一坪のを四分して內に種を一ケ所五六粒宛に蒔いて、其生へた時に其中の一番惡いのを拔去つて、一ヶ所に四本宛とし一坪に附て十六本作るとが出來ます、其穗は一本に二つ以上附くゆゑソーすると一坪で三十二本は充分に取れます、通例一食に三本宛にて足るゆゑ、一坪にて一人三日の食料が作れます、米は少し時節が遲れると蒔くとが出來ませんが是れは百日餘の間蒔くとが出來るので東京でも四月半ばから七月半ば迄蒔くとが出來ます、夫れて今日は十一月三日で御座いますが未だ生の玉蜀黍を食ふとが出來ます、茲に持參したるものは今日出掛に畑から採つて來たので御座います、ソーして此の玉蜀黍は古くから日本にあるものは、皮が堅いが亞米利加の善い種類は皮が柔かで砂糖分を多く含んで居ります、牛や馬の食物なら少し位堅くも收穫の澤山なるが宜いが、人間の食用にハ柔かな質を撰ぶ方が宜しう御座います、ソーして是れは如何にして喰べるが宜しいかならば、亞米利加抔では一週間に一度ッヽ四月頃から段々に蒔きます、ソーして段々に實が入りて出來ました時分には、先づ一旦皮を剝て赤毛を除き再び皮を被ます、此の皮を被けるのは甘味を俵中に漏さぬ爲であります、斯くして其皮で帶をして之を煠ゆてにした計りで宜いので、直ぐ膳に載せて喰べるとが出來ま

す、若し米ならば田地に作つても、御客を見て直に拵へて馳走に出す譯けには參りません、先づ之を苅り入れて乾したり挽いたり篩たり搗たり色々の事をしなければ食用するには至りませんが玉蜀黍ならば、今御客を見て貴所は玉蜀黍は何如で御座います、夫れは至極結構頂戴仕りましやう、イヤ夫なら下女早く畑から玉蜀黍を採つて來いと云つて直に擶茄にして御馳走することが出來まするので、餘程調法な者であります、ソーして其養分はと云ふと、前に言へる通り百分の十一含んで居ります、米は唯だ熱を起すの効能ある葛即ち澱粉のみを餘計含んで居ります、即ち酒抔になる可き分子を多く含んで居るのであります、又此の玉蜀黍は穗粒が少し堅くなつた時分には、之を鍋の中に削り落して牛乳を注して煮ると最とも善い立派な食物になります、又其上に今少し善くしようと云ふには一度削り落したのを擂鉢で擂り、味噌漉で糟を漉し去り之に砂糖を入れ鍋の中に入れて、水が多ければ沈澱し上水を除き濃き分丈けを殘して能く煮て、之を切溜の樣な器に詰めて置くと冷めるに隨がひ、煉羊羹の樣に煉ります、ソースると菓子税を納めず甘い煉羊羹が喰べられます、又此の玉蜀黍の堅くなつたのを取て置くには、之を竿に掛けて鼠に食はれぬ樣にブリキか曲物の樣なものを竿の兩端へ附けて置くが宜しう御座います、之を食用にするため挽きますには唯だ其粒が二つに割れさいすれば宜しひ、餘り細かく挽いて挽割の樣に致しては不宜ません、其二つ位に荒く挽いたのを箕の中に入れて篩と紙の樣な皮が飛んで仕舞ふ、之を再び挽けば粉米の樣な善い粉が出來ます、私が今年甲州地方へ參りました時に玉蜀黍を常食にして居りますから、其製法を尋ねましたら唯だ之れを粉となし餅となし燒いて喰べて居りました、夫れでは皮が粗くて舌に障ります、亞米利加などで製する玉蜀黍の食品が誠に旨い譯けは即ち其粉の挽き樣が宜いからであります、ソーして粉に挽いた者は長くて一週間位しか、保存ません故、亞米利加抔では挽割で賣買をして居ります、夫れから、前に申しました羊羹の樣な者の堅くなつたときは、之を燒いて喰べても結構で御座います、又粉にしたるをパンに燒きたるを「コールンブレッド」と云つて日用品でありま す、其粉を麵粉と交ぜて「イースト」を入れますが、夫れがない時は卵を入れても宜しい、其交ぜ方は麵粉と玉蜀黍の粉を等分にして卵を入れ水で溶いて少し鹽氣を附け樣と云時には、鹽鮭を燒き、其肉をボロ〜〜にチギりて之を粉に交ぜたるを

油を引いて燒けば、カステラの樣な誠に結構な品か出來ます、是は袖へ入れて辨當として持つて行くとも出來、又子供が學校へ辨當として持參するにも調法で御座います、又亞米利加では、玉蜀黍の實を苛性の水に浸して置いて、澱粉を製します、夫れは誠に養分のある能く消化する物が出來ます、或は子供の乳が不充分な者は、之を以て養ひ、又は金巾か唐更紗を染むるに之を用ひて、糊と致します。（未完）

○海外拾藻第二

田邨武治譯

左の一篇は米國有名なる女學士ハリエツト、ビーチヤア、ストウ娘の著に係はる聖史閨秀傳の序文より拔き之を譯せしものなり此書は史書中の婦人を三區に分ち論ぜり第一を家長時代の女性第二を國民時代の女性となし第三を基督教時代の女性とせり

（前略）今夫れ彼古代家長家族中に行はれし、最も著明なる性質は、相互愛情の淳厚にして、蓋し彼等の殊性に出づるものある如き是なり。試に思へ、吾人の世は遙に當時と異り、基督教は、既に其全力を盡して社會の道德を崇め、其化政治文學より、人生の幸福と俱に、著き進步をなせしと雖も、今日吾人の家族中に於て、如此きの友愛と柔和の美風を求むるとは、殆んど木に緣て魚を求むるの感なき能はず、嗟呼誰れか眞實以て其妻を愛する眞人エブラハムの如きある、穴隙をきるの感情なくして七年の羞恥を忍びて其赤心を竭し以てラチエルを愛慕せしジヤコブの如きものある、況や其父母たるの純愛に富むとジヨセフの如きは、人生以來獨步の美蹟たるに於てをや。

由是觀之家長家族中にては、婦人は全く內政上女王の權ありたるものに相違なし、尤も當時數妻同娶の風習を存せりと雖も猶ほ一夫一婦の愛情（Monogamic affection）の此間に行はれて社會を支配するの勢力を失はず、之をエブラハム及ジヤコブに徵するに其數妻を娶るものは、唯後裔を重ずるの義及び風俗の壓制に由りて、默許されたる等の事情ありしより來りしものにして、其愛情に至りては更に後世多妻の弊に堪へざる如きものありしを見ず、又暫く婦人の際より觀察を下すに、當時の習慣として、凡そ女子たるものは、最も各自身心の淸潔（Femle chastity）を貴ぶとは、少しく嫉妬心に出づるかと疑ふべき程なりし、一貴公子あり嘗てジヤコブの娘デナに通じ伉儷の禮を擧ぐると最も鄭重なりしと雖も、其兄弟等は其最初私通と云ふを惡みて、其僞を報ぜんとて、遂に血を濺ぐに至れり、又ジヨセフの傳中には身心の淸潔は男女俱に、堅く守るべきの大法たるを揭げり。

前條に述ぶる所の風俗人情は、實に當時家長系統即 大選民の

有樣なり、吾人は實に是より眼を轉じて此等の感化は、遠く後世を薫陶して、先づ預言者即ちナショナルペリヲドを生じ而して早く、基督時代の春花秋實を、併せて茲に胚胎せし原因を研究すべし。

モーゼスは、卓越なる立法者にして能く此民を制して、一國を組織せり、而して其意專ら一種不屈の膽力を備へたる族類を生じて、凡そ人世の蹉跌轗軻に遇ふも決して撓まざるの氣節を長ぜしめんとするに在り、是を以て吾人の時代に至る迄で、猶其餘風を承け志氣豪邁俊節世を蓋ふもの多くヱブラハムの冑裔に出づ、夫れ猶太人の勇壯剛毅にして、能く氣候の難に堪へ、能く流離顛沛の間に屹立して、決して其仆す所とあらざるの事實は世上隱れなきの美質にして、夙とに此點に付ては佛國政府の注意を惹起し、三四年間を距てゝ兩回迄も吏員を派遣し、普く同人種の健康及忍耐に富めるの原因を審査せしめたり。

在イスレール佛國公使エム、シゴー氏は、一千八百六十六年二月九日を以て、此主意に付き一篇の報告あり、曰く、余等普く諸說を參考するに、猶太人の秀逸なる勇壯の有樣は、更に一點の疑なしと、ダイトリシ氏ペルシアに就職の後、同人種の殊性を論じて曰く、彼等は能く飲食を制して身躰の節を失はず、且頗る心性の淸潔なるを發見せりと、而してニューフビル、グラター及びミヤー等の諸醫も、亦同く此の說を主唱せり。

ダイトリシ氏又云く、余は基督信者中には屢々沈湎するものを見れども、猶太人中に付甚だ稀なり、蓋し同人種は、頗る自治の精神に富み能く法に遵ひて其身を節すると、大に他の種族に異れりペルシャの刑法統計表に由るに、法律に觸るゝものゝ中にて最小數を占むるものは猶太人たり。

意ふに猶太人が特に壯健にして、且長命なるは、實に其の家法の完美なる結果なるべし、先づ之を略言せん、第一早婚は常例なりと雖も、其結婚上の注意最周到なると、第二一般に擧子の數少き故養育法自ら懇切緻密なると、第三家門の愛情他種族に比して一層深きと、第四猶太の母たるものは眞成なる傅姆にして、哺乳の勞慈悲の情と兩ながら善美を盡せると、蓋し如此き美風を養生せしものは、全くモーゼス立法の最も生理上に綿密なりしに由ると瞭然たり、偖て姑く該法律の精神を尋んに、概ね人をして食料及躰育上の節制を守らしめ、且之を戒むるに血液を害する諸病及び之に由て發る萬患

を防ぐの要を教へたり。

然れどもモーゼスの法律中、最貴重なる部分は家を齊ふの法即ち一家を以て一州の中心とすることにして、之を他の上古諸國民に徵するに、絕えてなくして僅にあるものなりと謂ふべし、羅馬希臘の世攻伐呑併唯賢とするの趣ありて、干戈の事獨り當時の要務にして、土地なるものは、只軍制の下に屬し戰亂の日兵馬の庇蔭するの用にのみ供するに過ぎず、况や一家の治如何に至りては更に措て問はざる所ありし、獨りモーゼスの法は然らず、其大本となす所は、平和なる土着の業を起して專ら農桑を務め、以て家族の生計を饒にするにありき、斯てキヤナンの土地を分ちて家族の根據となし、且つ其土地なるものは、永久其家に屬し決して之を販賣することを得ず、然ども事情に由りては、五十年間の賣渡を許さると雖も、該年限の充つる時は再び之を原家族の不動產となさゞる可からず、此等の諸律は皆以て一家の福祉を鞏固ならしめ、且之を永久に保つことを得せしむべし。（未完）

それ人の世にあるは戰鬪にあるがごとくならずや、又其日は傭人の日のごとくなるにあらずや、奴僕の蔭を慕ふが如く傭人のその價を望むがごとく、我は苦しき日を得させられ憂はしき夜をあたへらる。

批評

○佛敎の眼中に女性なるものなし

婦人教會雜誌第十一號は、麻布婦人教會に於て大内青巒氏が演述されたるものゝ筆記を載せたり、中に云く、

何故と申すに、佛法の上から見て男子と婦人との差別が無い斗りではなく、我國即ち日本の成立から見ても、男子と婦人と別々に論ずると云ふ譯けは御座いません、元來我日本の國の成立は、男女同權位の話では無い、婦人の方が國の本に成つて居ほどの事なり、又佛法の目的は、唯悟りを開くと云ふ一點で、其悟りを開く仕方には、聖道門の難行もあれば淨土門の易行もあるけれども、何れにしても迷を除くのが悟りであるが、男子だの婦人だのと、六かしい差別を立るのが、迷の中の大迷であるから、佛法に這入ない中は、彼は婦人だから、五障がある三從がある、佛に成ることは出來ない、極樂へ往くことは出來ない、などゝ鄙められたのも、一旦必至滅度の佛法が呑込めて、信心獲得の身となれば、男子も婦人も差別は無い、言葉を換て申しませうなら、佛法の目的は、男子婦人の差別を無くするので有ります、佛法は男女同權の最上乘だ云々。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

佛法の目的は果して如此きものに候か、然らば今の男女を全然差別なきに至らしめてこそ初めて其の目的を達したるにてあるべけれ、左樣ならば此の大事業の着手には何如なる手段より御始めある乎、先づ男を女らしくするより始むべき歟、又は女を男らしくするより始むべき歟、抑も亦た男女を打つて一つに丸るめ、而して後ち之を等分に振分けんとせらるゝ乎、何れにしても六かし、何れにしても有がたくなし。

○婦人に選擧被選擧權を與ふるの可否

憲法新誌第一號は、右の如き問題を揭げて之に三個の議論ありとして云く、

第一說　選擧被選擧の兩權を與ふべしと云ふ

第二說　多くの資產を有する婦女には選擧權を與へ其他の者には之を與ふ可らずと云ふ

第三說　婦女には選擧被選擧の二權とも一切與ふ可らずと云ふ

而して右新誌の記者は第一說を可としたり。

惡の杖はたゞしきもの〻所領にとゞまることなかるべし、斯てたゞしきものはその手を不義にのぶることなからし。

叢話

○細君

しのぶ

吾人は兼てより憫れむなり當今尤も歎き多き婦人を何如なる御方ぞと云はゞ、即はち深く文明の學問を修め、深く文明の自由を味わひ、深く文明の夫婦の交際を承知して而して此人ならばと誤まり認ためたる當世男子の許に歸ぎたるの婦人にてあるなり。元來ヨメと云ふものは姑舅小姑舅の機嫌を取つて良人にたゞハイ〳〵と素直に從へば夫れで善いのだと敎へられ、自分も亦た其氣に爲つて猫のようにして緣着たるものは、今の細君の有樣を左程の苦界とは思はぬ也、然し文字を識れるが是れ憂患の初めで生中西洋の男子は女を大切にするとか妻は同身同躰で夫に幷び立つものだとか承知したが不幸の種となり、扨て結婚して見れば中々左樣には行き申さぬ、カートシップ(結婚前見合中の交際)の比は鄭寧であつた男子が此時より急に尊大になつて隨分に失敬極まる、此方で之に應ぜぬと極めて不快な顏をして果ては外に遊び勝になる、女學校の二階で理想したことゝ、女權論の末に跋を書いて置た述懷とは決して〳〵似合もせぬ成行なり。此に至つて元と古し風の女なりしならば左程苦とは思ふまじ、恰も自由を知らぬ奴

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

隷の如く之が當然の運命と觀念して別段に歎息もすまじきに但だ氣の毒なるは反す〳〵も文明流の女學生、女學生が嫁と爲つたる新細君にてはある。

春の舍主人は此邊の意味を寫さんとの御謀反あるにや、嚢には妹と脊鏡を著はしてお雪を苦しめ、此度は亦た「細君」を著はしてお種を苦しめたり、何れも女子師範校の卒業生にして有難くも所云る當世の難義者に數へらるゝ資格あるもの也。然るに此の「細君」も亦た十分に例の苦痛を寫し出さゞりしぞ無上の遺憾なる、素より著作上の價値から申せば此の作は春の舍主人從來の著書中第一に居るべきもので、文章淡泊にして意ひ紙面に溢るゝ計り、暫らく隱居して養はれたる御勉強がシッカリと見ゆる筆先にて實に敬服の至りとは云へども、吾人が蜀を望んでの殘念と云ふは即はち當今文明流の細君の尤も發達したる苦痛が寫せて居らぬからである也。お種の性質を聞くに「負惜みの強いのと、愛嬌の乏しいと」、「學問の外に取所ろのない女で」「出世の望のない人へ添ふのはつらい」と云ふた氣象だとある、一種の女學生固有の氣質で之が外國婦人を妾にしたる夫を怨むのは尤もである、然し實際其の怨みよう其の歎きよう其の口惜しがりようは決して此の「細君」に寫されたる如きではあらざりしと思ふ、此處に寫されたるは尋常婦人の苦痛で、若し夫が妾さへ止めれば直に直ると云ふ淺い怨ようである、實に近來に無い名作ながら、其上わざわざ繼母を出してお種の苦痛の主なる元因を總べて此の方へ吸收せしめたは亦近來に無い大失策である。

夫は扨置き、兎角今の女學生が尤も不幸なので、當今尤も歎き多き婦人は立派な女學生が嫁となつた所ろの新細君である吾人は極めて切に之に同情を有し、密かに其の萬斛の恨みを慰さめんとを期するもの也、然し落膽する勿れ更らに決して失望する勿れ大凡ろの先進先覺は皆なかゝる苦境に陷いるものなるぞ、諸君が此の苦境に陷いるを得たるは即はち其の先進先覺たるが故にして、之れ實に諸君が大ひなる名譽なるぞ、諸君が今の苦痛は后代の女子の爲めに重きを負ふものにして先づ習慣を破つて將來の婦人の爲に十字架に掛けらるゝものなるぞ、カーライル云く

"The Wind blows east, the wind blows west;
The world, they say, is worst to the best." —T. Carlyle.

風は東に吹き復た西に吹く、世は最も良き人に最も惡しゝとは叫ぶ也。

○詩選、歌集、畫纂と云ふもの丶事　　も　み　じ

數多の詩人から各自に一つ二つ宛塡珠を拾ひ集め、無數の歌よみからそれ〴〵に一つ二つ宛金玉を拾ひ集め、幾多の畫かきより各〳〵に一つ二つ宛名畫を拾ひ集め、或は唐詩選と云ひ、或は古今集と云ひ、或は芥子園畫傳と云ふて珍重するものあり、火燵の中に寢轉んで吟じたり、勉强後に一寸と讀んで見たり、眠氣ざましに開ひて見る位ひには之て宜し、然し大凡そ眞正の美を研究して、一大美術家の心法骨法を推察せんと思はゞ決して斯る小刀細工を爲す可らず、美術の大家各自が所有する思想は決して一二の詩歌一二幅の畫帖中には現はれ了せず、あちらこちらに散りつゝ現はれて數十首數十幅の上に於て初めて自家固有の美粹を現はし盡くすもの也、美術を學ぶもの特に此の理を心得べし、日本支那の古しの大美術家には一二を除けば他に左したる大思想ありしものもあらざりしならん、然し西洋の大美術家の作を見るには固く此の邊の覺悟を懷くを要す。

○一枝を切らば　　み　ど　り

一枝を切らば一指を切るべしとは昔し辨慶が書きたる制言なりと云へり、攝州須磨寺の寶物中に

此花江南所無也一枝於折盗之輩者任ニ天永紅葉之例一伐ニ
一枝ニ可レ剪ニ一指一
壽永三年二月二日

と書たる制札あり、之を若木の櫻に添たると云ひ傳ふは誤まりにて實は梅なりしと云ふものあり、此花は即ち難波津に咲くや此花冬ごもりの此冬にして、南宋陸凱が范曄に寄する詩に、

折レ梅逢ニ驛使一。乞與ニ隴頭人一。江南無レ所レ有。聊贈ニ一枝春一。

辨慶は蓋し之を知りたる也、其風流の腸わた實に余裕ある哉、惣じて昔しの武士は大抵如此く今の人のなべて武骨なるに異なる。之に付て思ひ出すは、余が郷里の某、花滿開の下に一番を垂れて云ひけらく

一枝を切らば一指を切るとは壽永の掟てあり、我は一枝を切らば一指を切らるゝ如く思ふ。

花を愛するものは先づ花の友とならざる可らず。

○島田三郎君通信

英國婦人改進黨大會の景況

拜啓追々寒冷に向ひ候へ共益々御健勝の由奉賀候小生瓦完罷過候間御放念被下度近事に付女學雜誌の中へ御記載可相成

哉と存じ候件左に申上候。

本年(廿一年)十一月五日より七日にかけ當國中土の要府あるボルミムハムに全國改進黨の年會ありて數回の決議會と大演說會御座候得しが是と同時に全國婦人改進黨の集會と演說會あり決議會には男子の傍聽を許さず候に付入場するに由なかりしが演說會は公開して傍聽の自由を男子にも許るされしにより小生も參り申候會場はボルミムハムの町會所にて三千人を入るに足れり會場の摸樣は正面に大なるオルガンあり(大ある集會には音樂と唱歌とによりて開閉を爲すを常とするが故に樂器を會場に備ふるなり)オルガンの下一段高き所を演說壇となし四方には棧敷あり中央は一面の廣場にて壇の後並に棧敷と廣場とは皆傍聽席なりオルガンの前にはグラッドストーン氏が愛蘭自治案を國會に提出し居るの油繪を懸け本月七日午後二時三十分開場せしがグラッドストーン夫人會長の席に即き當府婦人改進黨社の書記、社員總代としてグラッドストーン氏が政治上に盡力するの勞を謝し夫人の手を經て同氏の肖像畫を呈せんことを請ふとの旨を述べしに夫人は其芳意を謝し併せて當府民がグラッドストーン氏夫妻を厚待するを感ずる旨の答辭を爲したり夫人の年齡は七十以上と見ゆれ共氣力極めて壯なるが如し次ぎにアバルヂーン伯爵夫人は此會に於て愛蘭自治策を贊成するの決議を請はんとて演說したる其の大意は英人動もすれば愛蘭人民の踈暴を尤むれ共其實際を深切に考究するの勞を取る者少く多年彼等を制壓し其れをして絕望の極に至らしめ平和の手段にては改正の目的を遂げ難しと思はしめ而る後に其暴行の迹を尤めて益々之を制壓せんとするは人情に違へる者にして唯愛島人民の憐むべきのみにあらず英國の爲めに永遠の利にあらず予は前年我夫アベルヂーン伯爵と共に該島に在りしを以て(伯爵はグラッドストーンの政府に於て愛島の太守たりしを以て夫人も彼の地に在りしなり)親く其慘塲を目擊して能く之を知れり感情の敏捷なる婦人社會は此人類の悲況を默過すべきに非ず宜く起ちて之れを救ふことを力むべし幸に改進黨は其主領グラッドストーン氏あり氏の政略未だ實行せられざるも既に其說の爲に愛人が英人を敵視するの情を減殺し得たり本年予は我夫アベルヂーン伯爵と諸國を旅行せしが旅中米國に於て愛人を接見し其說を聞き其人となりを見るに彼等天性暴人と生れしにあらず英國の政略に驅られて此に至れる者にして親く其言を聞けば憐むべきの人多く此等の人既にグラッドストーン氏の說を感

ずるの事實を見るあり故に我等婦人は聯合の力を以て社會を動かし其說を公表し自治說の實行を助くべきなり云々と夫人は年齡三十歲許なるが姿態嬌柔に見へ三千人の聽衆を入るゝの廣堂に其の聲の徹するや如何と思ひしに音吐淸朗にして論旨融徹說の進むに隨ひて次第に氣力の加はるを覺へ滿座肅然として聽衆の耳を傾けしめたり。（未完）

○プンヂツタ、ラマバイ氏問答筆記　米國新聞記者　某

問。印度高族の婦人にてアメリカに來りしは貴君のみと申すが左樣に候か。

答。（此時彼の玲瓏たる音を有するラマバイは巧みある英語を以て答ふるよう）私しの承知する所ろにては三人御座候、即はち私の從弟にてフヒラデルフヒア醫學校を卒業したる博士ジヨシーと私しと外一人にて候。

問。貴君はユニテリアンなりと申すものあり、眞に候か。

答。左樣に問かけられて否なと答へたるとも覺へ候、左りとて亦た三位一躰說を信ずるトリニテリアンにても之れなし、私しには元來此ようある近年の發明は分り申さず候、單に私はクリステアン即はち基督教の信者にて新約全書は私しに宗敎を敎へて余まりあるものと覺へ候。

問。然しウイルラルド孃は「私しはトリニテリアンにて其外の何如なる信仰をも信ずる能はず、私しの子供の時より既に如此く信ずるように腦膜に織り込まれたり、夫故へ此の信仰は實に私しの身躰の一部分の如し」と云はれたり。

答。然し私しの腦膜中には織り込まれて居らず候、私しは聖書の中にユニテリアン、トリニテリアン等の文字を見出し申さず、故に聖書の言へる通りに信ずることこそ此の方遙かに淡泊なりと存じ候。

問。然らば何如なる宗派に屬されて候か。

答。基督の一汎なる敎會に屬し候、私しは浸禮敎會の人、メソヂストの人、監督敎會の人、長老敎會の人等に會ひたるに何れも皆な聖書の意味に就て各自に相異したることを申され候により、私は自身と聖書を讀て私しに能ふ限り最良の者を見出すが反つて優りと覺へたるにて候、然に其の聖書中にて基督を世界の救ひ主と見出たれば則はち此の基督に私しの全心を捧げ候、一躰は英國に居る時に洗禮を受け候て凡そ許さるゝ限りは何如なる宗派の人とも共に聖餐に列したり、夫故へ私しは使徒信經丈にて十分なる信仰條目と存じ之を信じ居り候、たとひ何如に長き信仰條目條目說明を存ずるとも若し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

賜はつたる光りに從つて基督の御心を爲し得ぬ時は何の功能もなきことに候、私しは何の宗派に屬するとは宣言し申さずたゞ一個のクリスチアンとして印度に歸るものに候、私しの心中には新約全書特に吾が救主の語ばは十分に完全したる信仰條目となるものと覺へられ候。

〇萬國赤十字社大會の感(六)　石黒忠悳述

バーデンバーデンの饗應の事　第四日(九月廿五日)。此の日は、日曜で有りましたから、議事は休み、バーデンバーデンの有志者より、會員を其の地に招き、十時に滊車に乗り込み十一時バーデンバーデンに達しました。同地の市民は、老幼男女擧ッて悦び迎へ、種々の旗を窓に飜して來會を祝し、山上の古城に迎へられた。其の途中、窓に日本の旭旗、獨逸の國旗等を並べ揭げたるを見て、我々委員は頗る欣悅の思を爲しました。其の山上の古城は、實に眺望佳絕で、形容の致し樣無き程で有ります、奏樂立食等の興も有り、其地の浴場に赴きたる事の如きは、關係の渺き事ですから、除きまして、當時獨逸皇后陛下は、此のバーデンバーデンの離宮に在らせられたるを以て、其の離宮に伺候致しました。此の地は前申す如く、眺望も好く、浴室も有る者ですから、王族貴紳等が避暑せられる者最も多く、別莊抔も澤山に有りますし、夕涼に乗じて、散歩せらるゝ王妃抔をも見受けましたが、概して此の日は、婦人に關係はありませんから畧します。

太公の御招待、及び美は國に因て異る問答の事　第五日(九月廿六日)。此の夜はバーデン太公の招きに應じ劇場に集會致しました、其の催したる黄なる衣に綠羅(バーデン國の國色は黄と綠とです)を以て裝ふたる佳人、劇場の中央に立ち新製の歌曲を歌ひました、其の意は、赤十字の爲めに萬里外より來れる客に對し其の志の厚きを謝し、次に慈愛ある赤十字の擧は日に盛んにして全世界に普及すと歌ふ時に當り、滿場忽に光りを加へ、雲霧漸く散ずれば、二人の天使地球を捧げ登人の天使は其の上に立ち左りの手に赤十字を提挈て地球上に加へ右の手に花冠を捧げて其上に戴する所の活人畫で、ソレより奏樂も有り、唱歌も有ッたが、何れも新製の者で有ると云ふ事です。活人畫が終りて、更に他の通常のオペラとなり、オペラ終りて太公及妃殿下は各國委員を延見し、御馳走を下されて、懇ろに積日の勞を慰さめられました。其の時妃の申さるゝに、今の活人畫で地球の圖を見ても、卿の國と我が國との隔りの遠きを思ひ、卿が此に使ひするの容易で無いの

を察するし、加ふるに又日本　皇帝陛下并に　皇后陛下が御熱心であり、國民が赤十字事業に厚き志しを有して居るを感じて居ると述べられた。斯くも一寸した地球を見ても、直ぐに斯う云ふ談柄を設けて御話しなさるゝには感心致しました此の時某貴婦人（此の貴婦人の名も承知して居るが爰には申しませんがタヽ者では無いのです）が参られて、曰く「只今の芝居を見られたらふが、誠に芝居は美事と思ふが、卿は如何で有る」と問われた、私も悪るいとは云へ無いから、誠に美事です、「來會の婦人は皆美しいと思ふが何うか」、是れも悪るいとは云へ無いから、誠に結構で御座る、「續いて問ふが卿の國の芝居、卿の國の婦人と之れを比較したならば、何れの國が立派で有る」、是れから引ッ懸るのです、私は答へたう成る程立派には相違有りません、アナタの御國の芝居御國の婦人何れも立派では有るが、私の國の婦人私の國の芝居も立派で御座る、風儀は素より同じくは有りませんが、美なる點は決して御讓り申さぬ積りです、百合は百合の美があり菫はすみれの風が有る、然れども美なる點は何れも讓らない、人間にせよ芝居にせよ、英吉利なり墺地利あり、又アナタの御國なり、其の國各特有の美が有るから、一概に申す事は出きません、今日拜見致した所の者は何れも美しいとて御座ります、併しながら我國のも又美しいで有ります」と答へた。尤西洋抔では、謙遜するといけません、自ら卑下すると、眞に良きものが無いと思ふから、態と強く申しましたが、之れに就て曰く「成る程其の通りで有る、卿は亞細亞より來りて諸國を巡り周ッたから、佛蘭西や墺地利の誠に華美で立派で有るを見たで有らふ、併し我獨逸國の婦人は專ら華美を以て榮とは致しません、赤十字事業に熱心するが如き之れを婦人の美とは申す」と、蓋し之を云いたいから、前の樣な問を出したのです。（未完）

小説

○夢ならぬ夢（第二回）

フハンタシー

ナタニホル、ホーソーン著
湘川漁史譯

馬車は今、十四五町も行きたりと覺しき頃、通りかゝるは一人の少女、若き心の活き動き、足の運びも其れに連れ、落ち着かずしていそ〱しく、躍り歩める故なるか、（斯く言ひたらば禮なるか）いつしか緩む靴下止、早くもそれと心づき絹の紐（眞事絹にてありたるか）を結め直さんと楓の蔭に立ち寄

りつ泉の傍に眠り居れる、ダビドスチンをかいまみて、心あくも紳士の寢間を侵したりと、恥らふ顏は薔薇の花程色を帶び、抜き足しつゝ去らんとせしが、去り難き事の出で來りぬ、そは何あるか、一つの大蜂ブン〳〵、楓の內外隱れつ出でつ飛び去り飛び來ると見る內にダビドの方へ飛び行てはや瞼の上にとまらんとする勢あり。蜂の毒は恐るべし、罪もなく隔てもなきは少女の心、斯くと見るより手拭を取りて近々と寄り進み、拂ひつ敲きつ、漸くにして恐ろしき空中の魔を、楓の蔭より逐ひやりたるは、如何ある愛らしき狀なるぞや。少女は息を切りつゝ立ち止り、拒ぎ守りし人の顏を忍びやかに見、うるはしさよと心に思へば、紅の色は一際濃く、面の上に現はれたり。

嗚呼如何なる事なるぞ、結る夢の力を增し、覆へる幕を張り切て、其隙間より、窈窕なる少女の姿を、心の內に入ぬこそ、いとも〳〵不思議なれ、又其上にかゝる幸に逢ひながらダビドスチンの面には、喜ひの色も出ぬこそいとも〳〵訝しけれ。人は來りぬ、美しき昔の譬を借ていはんよは我が魂より引き裂かず、分れいでたる君がたま、再び一

つに合はんとて、互に思ひ思はるゝ、我と君との間柄、我が戀ひ慕ふ君は來りぬ、心を解くは只君とのみ、身を許すは只我にのみ、恥らふ人の面影は、泉の上に移り出でぬ、流と共に行去らんかダビドの命の川水にも、再び移る時なからん。能く眠れる事かなと少女はいひつゝ立ち去りしが、來りし時に似もやらず、足の運びハ輕からず。

少女の親は、此邊に住ひ居る、富める田舍の商人にて、此頃調度、ダビドの如き少年を、探し求むる折なりければ、道の端にてあらばあれ、少女に近づき、好き知己となりたらば、家の手代は尙ほ更に、世繼ぎとなるをも得たるべし。されば此の度にも、幸の內のいと大なる幸、出で來りて、衣の裾にて拂へる程、身の傍近くよりたれど、知らぬは眠れるダビドなり。

少女の去りて間もあらせず、替り入れるは兩人の男、きれの帽子を深く冠むり、前の緣をば目の隱るゝ程引き下げて、其外に現れ見えたる顏の色は、兩人共黑みがゝり、着物は汚れて裂けてはあれど、何處となくはでやかなる處あり。此兩人はいはずと知れたる惡者にて、何事にても魔神の授くる惡業は、手當り次第に行ふ、今は商賣の間あれば、カアドによりて分取物を分たんと、先に定めし約束に隨ひ、一勝負試みんと、楓の蔭に入り來り、思はずダビドに目を注ぎ、一人の男は「それ其の枕の包」とさゝやけば、他の男は默頭きて目配きし、又同時に目加せゝり。

「一杯懸けて請け合はん、彼奴は手帳を持ち居るならん、さなくば釣錢なりとも、シヤツの中に包みてあらん、其處にあくばヅボンの囊を探して見ん」先に男のいへる時「若し起きたらば」と他の男は心付くれば、先の男は物をも言はず、チヨツキの外に現はれ見えたる、短劍を指さして默頭きたるに、他の男も亦た「よし〳〵」と諾へり。

一人はダビドの上に跨り、短劍を胸に推し當て、一人は枕の包に手をかけたり。罪惡にて充ち滿ちたる、兩人の心は顏に現れ、其惡相凄くも又恐ろしく、若しやダビドが目覺めなば、必ず鬼と見紛ふならん。兩人の惡者たりとても、泉に移る影見あば己が姿と思ふまじ。

「包を取らん」と一人がいへば「動かば刺さん」と他は低語けり。

此時一匹の犬地の上に嗅ぎ廻りて走せ來り、心有りげに兩人の顏を打ち守り、又眠れる人の顏をも覗き、斯くして後、傍

の泉の水を飲めり。
「シッ畜生仕方がない、主人が近く來らん」と一人は言ひ、「一杯飲んで出て行かん」と他も答へ、一人は劍を元に藏め取り出だしたるは一挺のピストルなりされど是は一發人を害ふ、危なき物には非ずして、螺旋仕懸にて錫の杯を蓋となせる、一本の壜なりけり。兩人は快く飲み終り、今の仕損じに付き、戯けつ笑ひつ高聲しつゝ出で行けるは、さながら心より惡業を喜べるに似たり。暫くありて惡者共は、今の事は皆打ち忘れ、己れ等の惡事の嚴格なる天の使に、滅えぬ文字にて書き止められしを、夢にもしれる樣子もなし。其内ダビドは、死の陰の、危くも我が身を覆ひしをも知らず、又其影の行き去りて、事なくも生命の光の再び輝き出だせしをも悟らず、尚安らかに眠り居りけり。
眠りて凡そ一時も立ち、疲れも之に復し來りダビドは前程靜かならず、身を延ばすかと思へば唇を動かし、又或る時は心の奥にて、睡の神と語らへるか、解し難き幽かなる聲などいだし居る内にガタ〳〵と響き來れる車の音に、ダビドは眠を打ち破られ、我にかへりてムックと起てば、目の前に現れたるは、乘合の二階馬車なり。ダビドは一聲「待て〳〵御者」と呼び止むれば、御者は聲に應じて「二階へ召され」と答へたり。ダビドは直に車の上に飛び乘りて、夢の世の影を移せる泉には別れを告げ、人を見返りもせず、富は其上に黄金の色を浮め、愛は潜かに其さゝやく音をきゝ、死は其中に紅の色を染めんと、只一時の夢の間に、我が身の上に落ちかゝり續き起れる、事をも知らず、罪もなく心もなく、さも樂しげにボストンさして去り行きぬ。寢ねてあれ起きてあれ、足の歩のいと輕く、身の傍過ぎる出來事は、音をもきかで過すなり。數限りなき物事の、思の外に出で起る、中にながらへありながら、定めなき世に定めありて、先々迄も推し量り、身の生活を立て行くは、神の護のあるなるべし。（完）

佳傳

○法學大家アウスチン氏夫人（第二）

大學者アウスチン氏一生の功業は、殘念にも如此くにして亡ろび失せたるかと云ふに、茲にサラ、アウスチン夫人ありて遂に亡夫の志を成就せしめ、法學世界に甚大なる利益を與へたのであります。
元來アウスチン氏は、人をして己の上に徒らなる望を置かし

むることを大層に嫌われて、兎角後日に至り之が爲めに失望せしむるようのことあつては甚はだ氣の毒なりと云つて心配する氣質であつたからして、最初夫人に婚姻せらるゝ前にも其身が一生涯貧苦困厄の間だに苦しまねば成らぬとの覺悟を通ぜられたと見へます、婚姻前四年即はち氏が二十八才の時に后の夫人たるサラ孃に送られたる手紙の中に、

　余が一生は只だ艱難と失望とに爭ふべくとのみ定まり居るとなれば余は　神が余をして此の艱難失望に耐えしむるほどに強く成しめ玉はんことを祈る。

と書れた、夫人は之に答へて何如に申し送られたるか、后に法理學書の序文中に夫人が當時の事を追懷して書かれたる文に云く、

　斯る手紙の文言を與へられて、向來艱難と失望とに陷いるべしとの運命をば兼て明白に告げられ、而して自から之を細考して扨て承諾したる所ろの婦人は、固より此運命を怨むるの念なきが如く、亦た怨むるの權利もなきもの也、實に妾が此の名譽ある貧乏に於ての分け前手となされたるほどに能く妾が大望に適し妾が名譽心を滿足するものゝ、亦た他にありとは思はれ候はず。

と云はれたり、斯樣の高尙なる覺悟を以て婚姻せられたるの夫人なれば、彼のアラステン氏が果して一生涯艱難貧苦の中に艱やまるゝを尤も善く內助して、其の貧しき活計を先づ可成りに調理し乍ら、溫たかに夫の失望を慰さめ、アウステン氏をして顧みる所ろなく其の學問に一身を委ねしめたデス、此事を倫敦タイムスの記者が賞讃して申したるに、

　夫人は家內の細かき用務迄を極めて活潑に取り行ひし上佛蘭西書獨逸書を多く英吉利語み反譯せられた、其中にも獨逸の歷史家レチポルド、フホン、ランケの羅馬法皇史を譯したるものゝ如きは實に永久に存すべき名著である。

扨て夫人は、大略此如き覺悟、此の如き婦德、此の如き學力ありたる所ろのお方であつたれば、アウステン氏が十二年間もかゝつて深く研究しつゝ取集めたる原稿が其儘に消失するをタヾは置きません、若し之を全く消失せしむれば夫の骨や肉が茶毘一片の煙となりし如く之れも亦た北邙半點の露となつて仕舞うのである、然し若し之を調のへて之を立派なる法理學書に仕上げて世に遺すならば、夫は即はち永遠に世に生活して居らるゝのである。

無論、夫人は、猶豫なく其調のへ方に從事せられたであらう

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と思はるゝが、然し更らに一つ夫人の心を苦しむる所ろのものがある、即はち何如に苦心しても之を爲し得ることあらば爲さうが、若し左樣にしてコシラヘ上げたるものが不幸にして亡夫の志ざしに適はざるものにてもありしならば、之は反つて夫の名譽、イヱ名譽のみならず夫が一生涯の素志を損するものである、と此の一事が久しく夫人の心を惱ませた、されば或る時はかくの如くに考へられたとの事です、

妾は時としては考がへたり、吾が夫が未だ出版することを、嫌ひ玉ひたるほどの書をもし妾が出版したるならば、是れ既に夫の心に反く不從順となりはせぬか。

或は亦た省みて、

此書を調へて出版することは恰かも復た良人と共に居るの心地するも、左れば此の樂しみを盡して幾分かは良人と同居するの親しみを續けんとするに似たる事を爲して妾が殘生を送るは、寧ろ良人に義務を盡すにあらずして反つて自らの樂しみを恣いまゝにするにあらずや。

或は亦た思ひ切まりて、

夫が斯迄に世の善の爲に盡したる勞力も全く味われず顧みられざりしものを、其の勞力の迹を世に殘すも効なし、惣べて悉とく之を抱ひて妾と共に地中に葬らしめん。

と迄でに思ひたることもありしが、然し亦た心定まり氣靜かとありし時は密かに思ひ反し、

斯る大人が、斯る辛苦を以て作り出したるの果實を其儘に土中に埋まらしむるは宜しからず、良人が嚴密なる容赦せざる判斷によりて不完全ありとして棄てられたるものも、其の文躰其の順序等が未だ調のはざるとの一事にて全く破却されもすまじき程の實價を存するあらん、良人が國の爲め、人類の爲めに與へたる功益は尙ほ多くの途々に流れ入ることを得るならん。良人が高尙仁愛なる精神がもしも此の世の中の或る物より其報ひを得べしとあらば是は此れ、彼が勞力したる者が更に幸福なる地位に立ちつゝ、人世の幸福にかく迄に大切なる問題を研究する所ろの人々(法學者)に多少の利益を呈し得ると、知了するの樂しみなるべし。

と斯樣に思ひつゝ遂に出版することに決したる也。

酒は人をして嘲らせ、濃酒は人をして騒がしむ、之に迷さるゝ者は無智なり。

穩かに居りて爭うはさるは人の榮譽なり、すべて愚なる者は怒り爭うふ。

寄書

女子の義務を論ず

大坂梅花女學校生徒
有田てい

凡そ義務にハ自然と人爲との二あり自然の義務とハ人間此世に生れ來れば皆必ず負ふ所のものにして(玆に自然と云ふハ佛語の所謂自然義務(オブリガシヨン)を云ふにあらず)人爲の義務とハ契約或ハ約束上より負ふ所の義務を云ふ今玆に論せんとする所の者ハ自然の義務なり抑も義務にハ可爲義務と不可爲義務との二あり然り而して吾々か自然に負ふ所の義務にも亦た此二あり此二を完ふせざれば未だ以て義務を盡したりと謂ふ可らず假令い一部分と雖怠たりて盡さゞる所あれば全じく義務不履行の欄内に入らざる可らず蓋し可爲義務に於ても不可爲義務に於ても法律上より云ふときハ大抵不可分の者多し是れと同じく吾々が自然に負ふ所の此可爲不可爲の兩義務も一部分を盡して以て免るゝを能ハずたとへば一部分ハ貞節にして一部分ハ不貞節なるも可なり又た少しハ夫と爭ひ或ハ家事の不取締なるも其義務に欠くる所なしとハ人も道德も決して之を許さゞるなり論して玆に至れば義務不履行者にあらざる者ハ幾人かある妾其稀有なるを歎ぜずんばあるべからず嗚呼女子の義務も亦た困難なる哉。

今世上の姉妹を觀るに可爲義務を識す時ハ不可爲義務に欠くる所あり不可爲義務を完ふするときハ又た可爲義務に欠くる所あり即ち一方の義務に熱心なるときハ一方の義務を怠たるとあり譬へば夫に貞節なる婦人ハ進取の氣力に乏しく動もすれば夫の玩弄とならんとする者あるが如く或ハ進取の氣力に富むの女子ハ終に熱心の全く男子と其權利を爭ひエリザ、フアルハユの徒と爲り六韜八略に女權を主張して其極終に男子を仇敵の如く思慮するに至る素より女權ハ擴張せざるべからず然れども是を得んが爲め彼を失ふが如きハ識者の取らざる所なり抑も此社會ハ女子の獨り占有すべき者にあらず又た男子の獨りに專擅すべきものにもあらず乃ち男女の組合會社なり天下者非一人之天下乃天下之天下也然るに男子にして釋迦主義を採り獨り此會社を擅にせんとするが如きハ社員たるの權限を知らざる者と云ふべし又た女子にしてエリザの如く獨り女子の男子に勝れる點のみを擧げて位張返るが如きハ是又た社員たるの本分を誤りたるのみならず天帝より折角賦與せられたる女子固有の愛德を失ふに至る若し夫れ斯の如く社員か互に己れの權限を擴めんか爲めに爭ふときは決して此會社を久しく維持すると能はずして解散するにあらざれば資金を失ふて倒るゝに至るが如く男女互に權利を爭ふと甚たしくして互に相仇視するが如き事あれば牝雞の晨する亡家の兆にて此社會は終に亡びざるを得ざるに至るべし夫れ女子の德たるや乃ち愛にして此愛あるが爲め社會は圓滑に運轉するものなり然るに今エリザの如くなるときは社會ハ圓滑に運轉するに代へて軋轢止む時なくブルザユルをして失望せしめゴエテをして萎縮せしむるに至る果して然るときは女子か不可爲義務に背くものと云ふべし故に姉妹よ吾々は此愛德を失ふとなく何所迄も神か吾々に賦與し給へる所の權利は之を取らざるべからず而して今や我國に於ては憲法制定中にして人事編の如きも數年を出でずして發布せらるゝならん實に女子の權利の廣狹は此時に於て岐るゝなり故に姉妹に於ては最も親緣を玆に注ぎ注意を此點に怠たらず社會に向ふて公平なる法律を創設せしめざるべからず姉妹にして玆に注意せず是等の事は男子の職なりとして顧ず對岸の火災視して三絃を弄び琴を彈き裕々閑々として是等の事に無頓着なるときは啻に己か義務を盡さざるのみならず害を子孫に遺す者と云ふべし豈に一大事の秋にあらずや

(未完)

新報

(此の欄内自由に轉載を許す)

○福は外、鬼は外

安達が原に鬼はなく、鬼は吾が方寸の中にある也、古來福は内鬼は外と云ふを大層善いとのように思ふて居るが、滅法の間違ひて、若しも福が内に來て仕舞つたらば人々は何如にすべき、自分の所ろへは福が來れ人々の方へは鬼ころ行くべけれ、と云ふは實に不人情の極にあらずや。故に吾人は云ふ、福は外と、(而して鬼は内とも申されねば再たび又)鬼は外。

○結婚取急ぎの理由を講ず

近來は頓かに結婚が流行し、中々二三年の后でなくてはなど言ひ居れたる人々が急に目出度祝ひ了らるゝとの事あり、其理由を如何んと云ふに、法理精華は左の如く講釋したり、

法學士宮岡恒二郎氏は此度愈よ或る令孃と自由結婚の約整のひ過日中入輿の式を擧げられたり誠に目出度ことゝなん又聞く所に依れば其他壯年の法學士諸君にも追々氏が際に倣ひ令夫人を迎へらるゝ向少なからずと云ふ斯く壯年の人々が打揃ふて結婚を取急がるゝは何如にも不思議の事なれども內々其事情を探らせたるに事情明かにして尙更不思議の念を增す蓋し此等の人々は民法の發布將に近きに在りとの事を聞き結婚上に「カトリック」教旨に出でたる法律の繁多なる手續を經るの面倒を避けんとの意なるよし流石に機を見るに素早き學士と云ふべし。

○狂氣する勿れ

西洋人は辨じたり曰く、英雄とは一種の氣違いなりと、或る漢方醫は講じたり曰く、氣違とは一種の事に大相に利口なりと、蓋し英雄でも氣違でもたゞ一事一物に非常に熱心になりて其他の万事万物を見ざるに至るならん、故に之を狂氣とは云ふ也。思ふに今年は諸英雄が政治上に熱心するの時代ならん何卒狂氣せられぬようかねてより願ひ置く也、夫には折々心を轉ずるの工夫を爲し、家に於ては子供と遊び、外に出でゝは音樂などをきくの工夫を爲し、何よりも善きは多くの佳人女性に交わるをよしとす、一言すれば即はち全身是れ女學雜誌と爲るの工夫也。

○同志社義捐金

同志社長新島襄君が、明治專門學校設立の志望を天下に訴たへられたるとは定めし讀者諸君が悉く承知せらるゝ所ろなるべし、吾社に於ても亦た其の義捐金の取次を爲すべきに付申込あらんとを促がす、

因に云く、當今同志社女學校には外國女教師三名內國女教師五名同男教師五名生徒現員百七十六人一ヶ年收入高千三百五十圓創立以來入學生二百八十七名卒業生廿一名所有地坪數五千五百八十一坪同建物坪數三百九十一坪あるなり

○福岡縣三潴郡に於る日曜女學校　同郡の郡書記西川愼太郎訓導山口敬一同島巖太郎三氏の發起にて日曜女學校と號するを設け滿十六歲以下の女子に平易なる教育を授くるの見込にて每日曜日を教へ日と定め家內の用向に不都合なきやうにして知らず〳〵日用の學藝を覺へしむるの工夫のよし實に有がたき慈善の計畫と云ふべし。

○照暗女學校　大坂川口なる照暗女學校は今より十年以前の開設に係り次第に盛大に趣きしが今度更に教員を招聘し一層校規を擴張せる由なるが聞く處に因れば米國の同志者より金貨一萬圓を寄附せしに由り之に在來の積立金を加へて船場の中央に相當の地を相し校舍を新築する計畫あるよし。

○女教師養成會　雲州能義郡廣瀨小學校教員內藤新其他諸氏の發起にて郡內の女子にして尋常師範學校幼稚園保姆等の募集に應ぜんとする者を教導して女子教育を振起せんとの旨趣にて今度女教師養成會なるものを設け每週三日宛午后三時より五時に至る迄教授せらるゝ由。

○產婆申合規則　千葉縣東葛飾郡にては免許をも受けずして產婆の業を採り竊かに流產術等を施し不正の利を營むものあるより舊冬廿五日檢定試驗を行ひし節右等の悪弊を除かんが爲に一の申合規則を制定したりと云ふ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

外報

（此欄内自由に轉載を許す）

○ビーチエルストウ　同孃は頑病にかゝり余程危篤のよしにて掛念したる所ろ最早全快して例の如く筆を執るゝ由也。○女子理學研究　米國にては此の研究段々に増加の風ありペンシルバニア大學校にては午后三時より五時迄の間に特別科を設け女教師に植物學（生理解剖）を教授することにせり。

○女子改進會　*Association for the advancement of Women*　即ち米國の女子改進會と云ふは去年来第十六年會を開らきたり會頭ヂウリア、ワード、ホー夫人は會頭を退ぞきたしと固辭したれども滿場一同の賛成にて八たび再撰せられたり。

○佛國の商店女　同雇女は多くは一週に一日の休みもなく使はるゝとゆへベルモンド、ヂ、パウ夫人が會長となれる婦人會に於ては如此き使ひ方の弊害多きを兼ねて醫博士に十分に研究せしめ其の報告と共に各店主に勸告して一週に休日一日を與ふべきことを說き居ると云ふ。

○米國次回の交際女王　現大統領クレブランド氏の夫人が米國の交際社會に非常の大勢力あることは毎度記したることなるが次回の大統領となるべきハリソン氏の夫人は至て内氣にて家政に長けたる性質ゆへ迚もワシントン、ソサイエテーの女王たらんとは思へず之には副統領モルトン氏の夫人が當るなるべし同夫人は甚はだ巧みなる交際家なるのみか金力も亦た十分なれば定めしクレブランド夫人現今の輝やきに劣らぬほどの取まわしあるべしとは現に英國の雜誌ょ於て想像し居る位ひなり。

小供談

○金の卵を産む鵞鳥

或る時一羽の鵞鳥を持つて居る人がありまして大層、大切にして居ましたそうです、夫は何如云ふ譯かと申しますとあの鵞鳥は珍らしい不思議なものであつたからだと云ひます、そうですから之を大切になすつたのは尤ものとだと存じます。其鵞鳥は毎日卵を一つ宛産みましたのです、此う云ひますと夫は何も不思議ではありますまいと仰しやいませうが、イ、エ此の卵は並の卵では御座いません硬い金の卵であつたと申しますから夫を考へて御覽遊ばせ。此の不思議な鵞鳥は毎日〳〵御主人に光つた金の卵を産みましたから夫で此のお方はそんなに可愛がりなすつたのです。あなた方が此のお方は切度あの金の卵を町に持つて行つて賣りはなさるまいと思ひなさいませうが本當にそうでした中々賣りません善く用心して大きな鐵の箱の中にかくして置なすつた。毎日〳〵鳥屋の中に光つた新らしい金の卵を見付てはあの箱に入れなすつたが中々一晩眠まして翌朝の來るまで待つとが出來ませんほどに喜こびまして一日を丸で一週間ほどに長く覺へました。鐵の箱の卵が段々澤山になりますのを見て手を揉んで祝ひましたア、此の箱一パイ丈に爲ならば私は世界中の一番の金持と爲れるでせうと申しました。あのお方は此の金の卵の事しか少しも外の事を考へません、仕舞には大層慾張つて來まして箱一杯の金の卵を一度に欲しひと思ひました鵞鳥のヂナカには澤山の卵がありませう最はや待つて〳〵居るとはつまりませんと思ひました。夫故或る日あの奇代な鵞鳥を殺しました卵は何處にあるかと見ましたスルトあゝもう一つもありませんでした。實にこのお方は愚かな人で澤山の金の卵を産みます鵞鳥を殺したのです。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

通信女學合併附錄の事

○本社にて是迄通信女學講義錄と云へるを毎月一冊づゝ發行し既に第十五卷迄で出版したるが何分月一回にては餘り隔たり過るようなる上に一冊の枚數僅かに七十頁以内にては迚も十分に講述すると致しがたきに付此度之を女學雜誌に合して毎號に其附錄と爲し出版するとに改め候

○右樣合併いたしたるの利益數多之れ有り候、先づ其第一としては此迄での通信女學の讀者は以前の七十頁に掲載したる丈けの講義を引つゞき讀み得る上に女學雜誌に記載する社説論説雜話其外を同時に讀み得る事、其の第二の利益としては此迄での女學雜誌の讀者は從來に均しき有益の雜誌を讀み得る上に毎號八頁即はち一ケ月に於て元の通信女學に記載したる丈けの數多の信切なる講義錄を讀み得る事、なり。」

○然るに右樣合併したる爲に幾干の定價を増したるかと申せば僅かに一號に付一錢にて有之從來女學雜誌は二十四頁にて五錢の處ろ之に八頁を加へて只だ一錢の増價を要するは弊社の大勉强する所ろと推察なし下され候はゞ有難く候

○之により此迄で通信女學講義錄は毎月一冊にて定價二十錢の定めなりしに付今度女學雜誌の讀者は僅かに月に四錢の増價にて元と廿錢したる通信女學同樣の講義を聞くとを得、又通信女學從來の讀者ハ是迄の二十錢に僅かに八錢(府下の方は僅に四錢)を加へて廿四錢したる女學雜誌を毎號購讀するとを得べし双方に少からぬ御便利かと恐察致候。

○夫故へ此の改正によりて讀者諸君の御便利の幾干なるかを明白に一覽にいたし候はゞ左の如くに候

從來女學雜誌と通信女學とを合せて購讀せられたる方は自今毎月十六錢の御儉約とあり、其上三十日目に受取られたる通信女學を七日目毎に受取らるゝの便利となりたり。

從來女學雜誌丈けを購讀せられたる方は自今女子生理、育兒法、和文學一斑、理學一斑、家内理學、經濟學、歷史、等の信切なる講義を聞くとを得べし、而して從前より僅かに四錢の増價にて元と二十錢の通信女學を買ひ得る譯となりたり。

從來通信女學丈けを購讀せられたる方は自今其時々に注意すべき有益なる事件の社説論説、新版書の批評、數多の面白き雜話、佳傳、小説、尤も新しき内國外國の女に關する新報等を讀み得べし、而して從前より僅かに四錢乃至八錢の増價にて元と二十四錢の女學雜誌を買ひ得る譯となりたり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌定價改正の事

右に申す如く改正いたし候に付ては女學雜誌の定價を左の如く改め申候事

一冊定價	六錢	郵税一錢	府內無税
十冊前金	五十八錢	郵税共	六十八錢
半年前金	壹圓四十三錢	郵税共	壹圓六十九錢
一年前金	貳圓六十錢	郵税共	參圓十二錢

通信女學掲載方法の事

右に申す如く通信女學を合併いたしたるに付ては其の掲載法は是迄通信女學に掲げたるものゝ後より引續きて此方を載すると共に致し候、而して小供談百人首一口話の二つは是迄て女學雜誌に掲げ來りたるに付自今通信女學には講述いたさず候。又た附錄は后に至り一々取まとめて合卷といたし得るよう毎葉の終り迄で記載、殊更ら章節の句切には頓着いたさず候

通信女學十五卷迄賣拂代の事

右に申す如く是迄で通信女學に掲げたるものゝ後より引續きて此方に掲げ候ては從來女學雜誌のみを購讀せられたる方は中途より講義を聞かるゝ譯にて定めし御不滿足と存じ候因て右樣の方々に限り第十五卷迄の通信女學を左の低價にて差上申候

通信女學第一卷より第十五卷迄定價二圓六十錢の處
女學雜誌の讀者に限り
一卷十錢郵税二錢即ち
十五卷を一圓五十錢郵税三十錢にて差上候

但し之は女學雜誌の讀者に限るとゆへ御注文の節女學雜誌購讀者たるの有無を記載せられたく、尙ほ殘本は固より多くこれなく候に付御用の方は可成早く申込れ候方御利益かと存じ候

交詢案内

（催促する勿れ 新劵十錢送れ 委細に申來れ）

●雇ひたき方（甲）

- 十一 學婢 年齡十五六位のキリスト敎信徒にして薪水の業に從事し傍ら英學裁縫等の修業に志ありて給料に望なきものを雇度者あり
- 十二 下婢 年齡廿歳ゟ五十歳迄の基督信者を雇入度者あり
- 十四 裁縫 年齡廿年より三十年までにして家內の手助となり裁縫を心得たるものを雇ひたし可成は裁縫作法を望む但し地方なり
- 十五 召使 家內の手助けとなり小兒の世話をなすべき年少女子を雇ひたし尤も讀書算筆を學びたき志あるものを望む
- 十六 召使 重に小供の世話及裁縫等にして家事の手助けとなるべき年少の女子を雇ひたき所あり但官員の御內なり
- 十七 下婢 二十歳前後の薪水の勞を取る下婢を雇ひたし商家にて家族五人仕事はひまなり月給は一圓以上

●雇はれたき方（乙）

- 六 奉公 地方師範學校卒業生にて學資に困むに就ては可成西洋人宅にて兩人協力勉學旁雇はれたき二娘あり無給にて何地にてもよろし
- 七 裁縫 年齡廿三にして家內の手助けとならんが爲め又專ら裁縫に雇はれ度き者あり華族樣か町家ならば大家のかたき內にて舘拔造ならば通いても宜しとのこと其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し
- 十三 敎師 栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御內にても敎授に雇はれたきものあり可成くは麴町か駿河台邊を望む
- 十四 洋行 身元慥なる十八歳位のものにて英語學も可なり出來るものにて學問研究の爲め貴婦人の歐米に航せらるゝ御方の小間使ひとなりて隨行を願ひたし
- 一九 召使 裁縫の敎授を專にし其他女子學校等監督兼留守居樣の者に雇はれたし
- 二〇 裁縫 年齡十四五才にて華族樣か或官員方の御方之內ゟ小間使に雇はれたし最も餘暇に讀書授けくだされば給料は不申受
- 二四 奉公 年齡廿二才にして一と通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族樣か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし
- 二五 裁縫 裁縫は所もに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御內に敎師に雇はれたし
- 二六 學婢 學問篤志なれども資金に乏しきを以て學校又は令孃方のお付きにて餘暇に勉學したき年少女子あり無給にてよろしと

●喜びのめぐみ

- 十三 家婢 甲第十三號は先方にて雇入れになりたり

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

○百人一首講義

第八回

鈴木弘恭述

清原深養父

深養父は。大系圖に舍人親王五代の孫房則子。作者部類に筑前介海雄の孫。豐前介房則の子と見えました。舊註どもに從五位下内匠允とありて。醍醐天皇の朝の人也。其の事跡はあまり物に見えざれども。山城の愛宕郡小野の里に。深養父が建立せし補陀落寺といふ寺ありと云ひ傳へたり。深養父の歌は。古今集中に多くもあらねど。春下にある落花の歌に。花散れる水のまに〳〵とめくれば山には春もなく成にけり。とあるは。最も非凡の秀吟であります。

夏の夜はまだよひながら明ぬるを雲のいづこに月やどるらむ

此歌は。古今集夏の部に載せて。詞書に。月のおもしろうりける夜曉がたによめると有○まだは。いまだと同言にていを省きて。まだとも云也○よひながらは。宵のまゝ也○明ぬるをは。かやうのをはヨに通ふをにて。然るをといふ意を含めり。故に委云はば明けいぬるよ然るをといふ義也○いづこは。いづくと同言にて。くもこも所の義也。此所は重の指辭にて。がやうの何の何と云と同類也○一首の意は。夏の夜はいまだ宵だと思ひてあるまゝに。いつのまにか夜ふけて明けいぬるよ。然るを雲のいかなる所に月はやどるであらう。かばかり短かき夏の夜なれば。空行く月が常にさし入る山の端までは。よもや行き着くまじ。半途にて夜が明けたれば。大かた雲のいかある所にか宿りたるならむ。と疑ひたるさま也。爲家卿が此歌の意をとりて。卯の花の垣根は雲のいづことて明ぬる月のかげやどるらん」とよまれたるをも思ひ合せて見るべし○語格は一段切れにて。雲のいづことあるいづこが指辭にて。月やどるらむのらむにて結びたる格であります。

文屋朝康

朝康は。トモヤスとよむともいへり。作者部類に。文屋康秀の子なり。大膳少進。仁和朝後の人とあり。或説に延喜二年任大舍人允とあり。宇多の朝より醍醐の朝までも仕へたる人であります。

志ら露に風の吹しくあきのゝはつらぬきとめぬ玉ぞちりける

此歌は。後撰集秋中に載せて。寛平の御時是貞親王の歌合のうたであります○志ら露は。キレイナル露といふ義也○吹しくは。風のふくが上に吹くと也。すべて志くといふ言は

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

物の重なることとなり○つらぬきとめぬは。貫き止ないといふこと之。大方玉は糸に貫きて愛玩する故にかくいへるなり。この歌は。秋のあした草木の上に。所せきまでおき渡したる朝露を。風が俄に吹出で。やまずにうち吹けば。露のこぼるゝさまを見たる實景也○一首の意は。おきわたしてある奇麗な露に。風の切りに吹く秋の野は。恰も糸につらぬかない玉が。ばら〱と散るやうヂャがさて面白いことであること之○語格は。一段切れの歌にて。玉ぞのぞか指辭にて。けるて結べるなり。

右近

右近は。右近少將藤原季繩の女也。藤原氏系圖に。季繩は眞成の曾孫。子葉といふ人の子にて。鷹匠の名人にて。右近衞少將從五位上になりたる人とあります。さて右近といふのは實名にあらず。例の呼名之。父が右近少將なる故に右近とはいへるなれど。實名は詳ならず。歌仙部類に。朱雀村上二代の國母太皇大后に仕へたり。父季繩は。交野の少將とて。好色に名高かりし由見えたり。此國母太皇大后と申すは。七條后穩子とまうし奉りし御かたであります。

わすらるゝ身をば思はずちかひてし人の命のをしくもあるかな

此歌は。拾遺集戀部に載せてありますが。大和物語にも見えまして。大和物語には。おなじ女。男のわすれじとよろづのことをかけてちかひければ。わすれにける後にいひやりける。とありて此歌をのせて。かへしはえきかず。とあります。これは大かたの戀のうたと異なりて。浮薄なる男に對して。猶眞實の愛情を述たるなれば。舊註どもにも。此の歌ぞ誠に戀の歌の本意といふべし。など論じてあります○わすらるゝ身とは。女がみづからの身上をいへる之○ちかひてしは。男と堅く神かけて昔時誓約したといふとにて。此のしは過去のし之。さて神かけて堅く誓約するとは。たとへば。若し變心して違約したならば。その違約したものゝ一命を取り玉へと。互ひに命をかけて神に祈誓しさま之。故に今は男の方にて違約したれば。男の命を神は取り玉ふ事ならんが。其の男を恨めしとも。悪しとも思ふものゝ。眞底にくゝはなくて。却て女の方にては。男の命を取らるゝのが氣の毒に思はれて。みれんらしいがイッソ惜まるゝワイ。といふ眞の愛情を述べし也○一首の意は。先方は薄情の男にて。此方はかやうに忘れてしまはるゝ我身と

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

分業の利

經濟學

第三章　財本（其二）

北溟漁士

分業　手近ひ話が、此講義錄を御覽なさい、如何にして此講義錄が出來ましたか、先づ記者が筆を採て原稿を認め、之を女學雜誌社に送る、社へ到着して印刷方へ廻れば、字拾が活字を拾ふ、組方が之を組む、校正方は組樣の間違たのを直す、器械へ据付る、之を印刷する、印刷し上ればページに斷つて、本に仕立て、之を配達して始めて讀む人の机の上に登つた譯である、若し始の筆を採るより、終の配達に到るまで、記者一人の手で爲ねばならぬときには、丁度此一冊に、百日を費しても覺束ない、然るに之を十八人に分けて、書者は書く、刷る者は刷る、仕立る者は仕立る、と働くときは、百部を十日で製らへる事は造作もない、シテ見れば前後差引ゐて丁度百倍の相違がある、又アダム、スミス氏の言によれば、西洋の針留は、都合十八通りの手數を要するとなるが、各々業を

分業の利
第一

分けて之を爲せば十八人にて一日に五万本を製らへることができる、若し業を分ねば、如何程熟練しても十八人にて一日に二百本より出來ない、即ち前後二百倍の相違がある、又セイ氏の言によれば、骨牌は一枚につき七十二通りの手數を要するとあるが、分業の法に依れば、三十八人にて一日に一万五千枚、即ち一人にて五百枚を製らへることが出來る、若し此法に依らざれば、一人が一二枚より製らへることが出來ない、ナぜ此樣に分業にすれば、百倍、二百倍、五百倍も生產に功能があるかと問へば、アダム、スミス氏は左の如く解明せり。

各々一業を受持つときは。

第一手早くして功者になる事。

第二甲の仕事より乙の仕事に轉ずる時間の費なき事。

第三手練た事より自然に工夫を考出して。機械の改良及發明を爲し得る事、

第一　何事でも爲し初と云者は、手の運が鈍く捗取りが遲くそして仕損ひの多く、手際の惡きもの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

分業の利　第二

である、然るに段々馴れるに從ふて、手の運方も早く、目の注方も鋭く、心の用方も巧になつて、仕事も巧者になる、オルガンを上手に奏る人を見に、其人の眼と耳と手と足と心とは、常に同時に働ひておる其巧みなると迚も人間の仕業とは思われない程である之全く熟練の巧である、熟練は專ら一の業に心を込める程上達をする、彼これと澤山に移り變りては、熟練の調子を覺る事は覺束ない、之れ分業第一の功能である

第二　試に一日の中にて、縫物も爲し、臺所も立廻り、手習ひもなし、オルガンも復習へ、本も讀む、として御覽なさひ、其忙しき事如何斗ぞ、針箱を出して針に糸を徹したかと思へば、釜の下を焚付け湯が煮立つたと思へば墨を擦り、筆を持たと思へば椅子に掛り、又机ゐ倚つて字引を操ねばならぬ、若し斯の如くなるときは、彼方へ移り此方へ變りする度に費す時間と支度に取掛る時間とを合す時は、正味働く時間より反て多ひかも知れない、然し此は一人一家の世渡りであるから、致

分業の利　第三

方もなき事なれども、若しも何かの製造であつて斯の如く時間を空く費す事が多ては、其損亡は實に大なるものである、前の例の通り、針一本に十八種の手數あり、十八度手を變るとして、一度變へるに三分費すとすれば、都合五十四分、之を十たびで即ち九時間である、若しも分業にすれば手を變る事がないから、此時間は少しも失ふ事はない、然し手も目先も變らぬから、職業に厭きが來て仕事が活潑に出來ない不利益がある、といふ議論は、誠に道理ある事なれども、手を換ゆるため多の時間を失はない事は、分業第二の功能である、

第三　蒸滊機械を發明したワットの如き大智者でも、滊鑵の辨を自然に開閉する工夫だけは考へ出されなかつた、故に之が爲には一人の子供を使つて開閉せしめた、處で此子供が思ふ樣、若し此辨さへ自然ゐ上り下りさへすれば、近所の友達と一緒に遊ぶ事も出來、又は學校へ行く事も出來る譯なりと、ソコデ色々と工夫を凝らして、遂に辨の自然に開閉するとを發明した、其外目に一丁字を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

婚姻說

緒言

古人も冠婚葬祭は、人の大禮ありといひしが、實に婚姻は人生の一大事にして、其當否は一生涯の禍福幸不幸の大原因となるものあり、若し、己れの氣性位置に能く適ひたる君子を得て、以て良人とし、或は適當なる伉儷を得て、五十年の伴侶とせば、其幸福實に無限なりと申さゞるを得ず、然し婚姻の當初に於て、不注意なれば假令へ暫時は、琴瑟和樂一家團欒の幸福ある如くなりと雖ども、水上の泡沫、一時の假象にして、忽ち家内に風波を生じ、とゞの末は日本の如き國に在りては離婚となり、離婚の容易に認められざる西洋諸國にては別居となり、人生快樂の大本は、却て不幸の原因となるなり、今日歐米の如き婚姻法整備し、妙齡の男女共に婚姻の大切なるとを感じ居る國柄にても、幸福なる家の、或は尠きを見れば、我日本の如き、寧ろ婚姻を粗忽に見做す國に於ては、宜しく強く婚姻の性質、合性の事、婚姻前の注意、婚姻後の心得、等を研究するの必要を唱ふべきなりと信ず、是れ玆に婚姻說の一課を說きて、少しく右等の箇條に就て、研究せんとする所以なり。

第一章　合性と云ふ事

男女伉儷を撰む前に、尤も大切なる一箇條は、最初に雙方の間に心性上、形躰上共に相合ふと、則ち所謂合性と云ふとなり、此合性と云ふ事は、三世相などにて用ひたる意味よりは廣く、玆には氣質、身躰上の關係等を含ましめたり、さて近頃歐米にて婚姻法改良の熱心家中には、彼の所謂プラトニック、ラッブ（希臘の哲學者プラトーの如き愛と云ふ意）とて、婚姻なるものは徹頭徹尾高尙なる兩性の親和力を根基とせざる可らずと、唱ふるものあり、又或は婚姻と云ふ者は、唯だ男女の情熱を本とすべし、別に深き愛情などの要なしと云ふ、極端論者も尠からず、然し近來大に發達したる生理學に依るに、右三說とも承服し難し、蓋し夫婦を連結する所の遠心力、求心力とも云ふべき者は、互の愛情あり、左れば此愛情は唯哲學的、推理的に「愛スベキ筈ユヱ愛ス」と云ふが如き、冷淡無味の愛情のみにても全からず、左ればとて、理屈に關係なく唯情慾的の愛情のみにても亦不可なり、要するに、此二ツの者甘く調合せられたるものこそ、則ち眞の愛情とも云ふべき者にして、婚姻の基礎實に玆に在り。

世間の家族を視に、彼「プラトニックラッブ」流の間柄とも覺し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

き夫婦は、別に左したる不幸不和の状なけれど、彼の二躰なれども靈は唯一なりと云ふべき美麗なる伉儷の快樂なし、之に反して愛は唯情熱より起るものにして、男女相合ふて夫婦となるに至るは禽獸の時に及んで、其配偶を求むるの情を起すと同一なりと云ふ說の如きは、實に上帝の一子として、萬物に靈長たる人類に對し、不禮至極の言なりと云はざるを得ず、成程人間と雖ども、動物學者の眼中には一個の動物に相違なし、左れば多少下等動物と類似の點もあるべし、例へば、饑て食を求め、渴しては水を求め、苦痛を避け、快樂を願ふの情は、少しも犬猫と異なるなけれど、人間は一種特異なる理性知識を賦與され、隨て兩性の關係も、禽獸の如く唯自然の情より相合ふべきに非ず、氣質位置の適合するや、否やを顧みるは、最も大切の事なり、左れども自然に兩性に賦與せられたる相合ふの願望も、決つして蔑視すべきに非らず、此自然の願望あるヿを認むるとも、決して人類の尊貴を害することなし。

凡そ夫妻能く和合し、眞に伉儷の幸福を全ふするには、互に感情を交換するヿ必要之、學士フハウレル氏は「愛情及父母」と題する一書を著して、此點に就て有益なる說を述られたり、今茲に此ヿを說明する爲め、同氏の書より適切なる部だけ數節を引用すべし、

互に感情を交換すと云ふ事は、誠に大切なるヿにて、之なくば男女が未だ婚姻を爲さず、所謂「コーテシップ」の間柄に在るときも、又は已に大禮を擧げて、夫と呼ばれ妻と云ふ間柄にありたる後も、眞正の愛情は維持されぬものなり凡そ一方の愛情が愈強く濃やかなるほど、之に交換すべき他の一方の愛情も亦強く濃やかならざる可らず、……

彼の兩親が何故に其子を熱愛して、云ふ可らざる面倒を見るを甘ずるやと問へば、呱々として號泣する赤子も、其父母を見ては滿面に微笑を含み、後來成長して、少しく物の東西を辨ずるに到れば、直に兩親を慕ひ、父出づれば泣て共に往かんと欲し、其母の膝に在て安く睡れる顏色は恰も堅固なる城廓の中に在て、安心するが如し、此の如き兒子が、其父母に對し頑是なきながら、其愛情を示すに到るは則はち母親が、夜中碌に安眠せず、終日其子の爲めに心を勞するを物憂しとせざるのみか、却つて喜ぶ色ある所以なり、男女の戀愛するに至るも、其本を尋ねれば、自分が拂出したるだけの愛情に對し、他の相手より少くとも、同じ分量

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女子讀本

緒言　家と云ふ事幷に家事經濟の事

英詩にスウ井ートホーム(樂しき家)と云ふ一什あり、誠に能く家の和樂團欒の狀を寫せり、そも此英語にて「ホーム」と云へる語ハ、佛語などにて丁度同じ意味の字なしと申して、實に深長なる意味あり、日本語にては先づ家と譯するより致し方なし、然し日本語に家と申すハ住宅を指すを通例にて、英語のハウス(住宅)と同じき場合多し、故にホーム必ずしもハウスに非ず、ホーム、則ち家と云ふは、必ずしもハウス、則ち住宅と同じからず、例へバ某氏あり東京京橋區紺屋町一番地に夫婦家族一同寓居するときハ、同所は其人の住宅、又ホームなり、然し若し麹町區一番町二番地に移轉せバ矢張其所ハ其人の住宅、又ホームなり、同じ住宅なれども其住宅の構造間取等は決して前と同じからず、然しホームは同じくホームなり、則ち住宅と家とは全く別物なり、蓋し家を結付る者は家族間の愛情と云ふ一個の丈夫なる繩にて、此繩は多くの心を合せて一個の家、則ちホームを形付るものなり、苟も善良慈愛なる父母の家に養育されたるもの、誰れかスウ井ートホームの詩を誦して感激せざる者あらん、彼の幼稚園の熱心家フーベの如き、子女の敎育に全心を注ぎたる、父母の間に生長したる故、殊に此詩を愛誦せりと傳ふ。

さて、右の如くホームの意義を説明し置き、次に考ふべきは家事經濟と云ふヿあり、そも經濟と云ふ言は、古昔より用ひ來りたる語にて、近來西洋の學術日本に傳はり來りてより、經濟學と申して立派なる專門學も出來たり、通例我儕經濟と申すは、高價なる品物を買ふべき所を、先づ安き者にて濟し、衣服の破綻たるときは、大破に及ばぬ内に繕ひ、萬事節儉して金錢を貯蓄するヿを申す如く覺ゆ、然し金錢を遣はぬ樣にし貯蓄するヿ必ずしも經濟と云ふ可らず、諺にも安物買の錢失ひと、申して低價にして脆弱なる品を買ふは却て不經濟なり、されバ經濟とハ亦金錢の用法を知るをも含めり、又經濟とは萬事を正當に處理するヿにて、費用すべきときハ費用し、節儉すべきときハ節儉するヿを云ふ、經濟に達したる大藏大臣は、歳入に比例して各省の費額を定め、政府の負債に苦しまざる樣に處理するにあり、家事經濟とは、適當の方法を以て一家を整頓するヿなり、一國の安寧繁榮を保たんとならバ、法律に從はざる可らず、其如く一家の和樂幸福を得んと思はゞ、亦法律に從ふヿ大切なり、政府の法律に刑法、治罪法、民法、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

商法等の區分なれども、一家內に行はるゝ法律は、少しく其名を異にす、先づ父母に從順すべきと、兄弟を愛すべきと、夫婦睦しかるべきと等は義務法とも申すべきか、此法律に背く時は、誰にても心に愉快滿足なし、又空氣の流通、食物の調理等の事を敎ゆる法律は、之を衞生法とも申すべし、政府の法律を犯す者は罰金、禁錮、死刑等の刑罰を蒙むる如く、上に述し衞生法、義務法に違背する者は、必ず不和、心配、病氣、痛苦、等の罰に處せらるべし、若し又豫じめ夫等の法律を取調べ置き、愼愼柔順にこれを遵守する時は、其人の有樣はます／＼幸福なるべし。

少しにても衞生法を脩めば、直ちに一家の內にて宜しく爲すべき事、宜しく爲す可らざる事の判斷は、容易につくべし、實に女子の未來を思へば斯の如き智識は極めて要用なり、なぜなれば女は一家の女王にして、婦女子の正當なる職務は此王國を支配するになればなり。

第一章　一家の義務、食物幷に其料理法、衣服幷に其地質

一、兩親に對する務め、

一人の年老ひたる紳士、病に罹り早や終焉の際に臨み、其一子を枕邊に招き、細きせつなき聲にて

オー我兒よ、爾は余に對し一日として幸福の源とならぬ日とてはなかりし、爾が生れてより以來、爾が病なりしときを除ては、余に毫末の痛苦だに與へしとなし、余は今汝に此世の分れをなさんとするを恐る、

と語りたりと、此言を受けたる娘、兒は如何に嬉しく喜しく感じたらん、悲しい哉、世間を見渡せば、父母臨終の其際に始めて永き睡より醒め、ア、不幸の生涯を送りしよ、今一度病氣回復にならば今度は心を盡して奉仕へ奉るべきにと、嘆息して胸を擊つ兒子は幾何あるぞ、假令へサシテ不幸不順の子でなくも、ヨク／＼己れの本心に尋ねなば、父母の此世に在す間に敬愛の心不足して、幾度か心配を掛け奉りしとを想起すべし、「子ヲ持テ知ル親ノ恩」、滔々たる天下の御子さま方は、已れ心配を掛けらるゝ位置に立て、始めて親の恩を覺る方なり、猶太の賢王ソロモンの言に、賢き子は喜しき父を作れども、愚なる子は母の憂なり、とあるが、是は當息子のみならず、世間の娘子たちも同樣、義務を怠り母親の心を痛め給ひしとはなき乎、サテ義務と申すは如何なるとか、義務とは何か、人にせねばならぬこと、何か人か自分に要求すべき權利なることを申すなり、故に兩親に對する義務と申すは何

教訓畫

版權所有

正價 ○石版摺壹枚金六錢○同上上等品壹枚金八錢五厘○同上四枚を一枚に仕立 用者色用圖壹枚金十五錢 郵稅壹枚金五錢但ボール仕立を除く

第一回 發行目次

○仁德天皇の高樓に烟を眺め玉ふ圖
○源義家の野に伏兵あるを察する圖
○山內一豐の妻の黃金を夫に獻する圖
○植樹併の將軍家光の問に答ふる圖
○宮府女の孝の閻王に召さるゝ圖
○英王アルフレットの讀書を母に習ふ圖
○小野道風の蛙を見て感悟する圖
○松下禪尼の障子紙を補綴する圖
○森蘭丸の織田信長より佩刀を受くる圖
○塙保己一の源氏物語を講する圖
○司馬光の甕を破りて友を救ふ圖
○ワシントンの父に向りて身の過を謝する圖

從來世間に東錦繪を始として兒童の玩具に供すへき圖畫の種類は多けれど小學校幼稚園及家庭に備へて教訓の用に供し兼ねて兒童の心目を悅はしむへきものは極めて稀なるを以て先般來其教育大家の御勸告も有之且は各府縣の教育家諸君并に父兄諸君より此種の圖畫の有無に就て度々御下問有之候に付今般新に意匠を凝し題號の通修身地理歷史博物々理及農工商の實業等凡そ兒童の教訓に缺くべからざるものにして各學校の褒賞品等に最も適當なる石版圖畫を漸次發行して教育上の御便利を相謀り候間自今每刊陸續御購求の程偏に奉希望候也

發行所 **楠山石版舖** 東京々橋區竹川町四番地

發行所 **鶴淵幻燈舖** 東京淺草區並木町四番地

始業及女生徒募集

來十四日始業す寄宿生は十二日に歸校し通學生は當日來校すべし○欠員あり有志の貴女來學あれ

麻布區永坂町一番地 **香蘭女學校**

女子生徒募集

◎普通學を卒り自在に意思を綴り得る者
◎熱心篤志先づは中途廢絶の憂へ無き者
◎通信教授所謂自宅獨習生は御斷り申す
◎成効の見込無き者は一月內に謝絶致す
◎束脩五拾錢月謝五十錢すべて前納とす
◎資格を全備せざる間は卒業證を與へず

下谷車阪町七拾一番地 **速記法女子研究會**

講師 佃 與次郎 外男子一名女子一名

女子敬愛學校生徒募集

本校ハ主トシテ和洋服裁縫編物及ヒ英語學ヲ教授ス但シ時々修身學及ヒ婦女日常ノ心得ニ就キ口授スルコアルベシ亦タ漢學數學ノ教授ヲモ生徒ノ望ニ應ス

芝區兼房町十三番地 **女子敬愛學校**

嚴本善治編 女學叢書 **木村鐙子小傳** 定價十錢 郵稅六錢

右は鐙子刀自の傳記にて姉妹方の必ず閱讀せらるべき價値あるものなり

文法口授 鈴木弘恭大人著○一冊定價十八錢

右は明治女學校、成立學舍女子部、跡見女學校、頌榮女學校、長榮女學等の教科書たりし處**第一高等中學校**に於ても此度び亦た此書を以て**教科書と認定**せられたり、他の各女學校及び男子の學校に於ても同樣に採用せられんことを請ふ

京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

遞信省認可

生徒募集廣告

今般本校ニ於テ生徒募集候條年齢十二年以上高等小學科以上ノ學力アリテ入學志願ノ女子ハ願書ニ履歴書ヲ添ヘ本月二十日迄ニ本校ニ差出スヘシ但詳細ノ儀ハ本校若クハ府廳學務課ニ就キ承合スヘシ

廿二年一月

京橋區小田原町四丁目八番地

東京府高等女學校

新年の御祝詞申納め候

芝南佐久間町二丁目一番地

私立東京女學

始業并女生徒募集

來七日ヨリ始業候ニ付寄宿生ハ其前歸學シ通學生ハ同日ヨリ登學スベシ●本年ヨリ改正規則實行候ニ付寄宿通學生及幼年生高等科生共二百名ノ入學ヲ許ス至急申込アレ

芝南佐久間町二丁目一番地

私立東京女學

校長 伯爵 庭田胤子

女生徒募集廣告

一月八日ヨリ始業ス因テ本科豫科ヘ入學ヲ許ス學科ハ内外國教師十名ニテ和漢學英學其他普通學ヲ教授ス規則書望ノ方ハ郵券二錢送附アレハ是ヲ呈ス

芝區白金猿町五十三番地

私立頌榮女學校

發兌

一月。五日 十二日 十九日 廿六日

二月。二日 九日 十六日 廿三日

三月。二日 九日 十六日 廿三日 三十日

四月。六日 十三日 二十日 廿七日

定價

一冊。六錢 郵税。一錢（但府内無郵税）

十冊。五十八錢郵税。十錢（同前）

半年分 一圓四十三錢 府外は 一圓六十九錢

一年分 二圓六十錢 府外は 三圓十二錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲するものに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部附の割合と定む

一行 一回（廿七字詰）前金拾錢

同 三回以上に 一割引

同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引

但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係の事

物は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評す

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殷々堂○同芝西久保櫻川町萬昌堂○同神田區雉子町國々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新和泉町良明堂○同京橋區木挽町四丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町四丁目文[illegible]○横濱[illegible]○同太田町三丁目[illegible]○同本町六丁目[illegible]○京都四條通小橋西へ入[illegible]光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンが[illegible]○大阪備後町四丁目[illegible]○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙[illegible]○同國名古屋[illegible]○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原大緑○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目榮園堂○熊本文明堂

明治二十二年一月十一日印刷

明治二十二年一月十二日出版

東京京橋區日吉町八番地

發行所 女學雜誌社

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1,43 six months, *yen* 2,86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

生徒募集廣告

今般本校ニ於テ生徒募集候條年齢十三年以上高等小學科以上ノ學力アリテ入學志願ノ女子ハ願書ニ履歴書ヲ添ヘ本月二十日迄ニ本校ニ差出スヘシ但詳細ノ儀ハ本校若クハ府廳學務課ニ就キ承合スヘシ

廿二年一月

京橋區小田原町四丁目八番地

東京府高等女學校

新年の御祝詞申納め候

芝南佐久間町二丁目一番地

私立 **東京女學**

始業幷女生徒募集

來七日ヨリ始業候ニ付寄宿生ハ其前歸學シ通學生ハ同日ヨリ登學スベシ●本年ヨリ改正規則實行候ニ付寄宿通學生及幼年生高等科生共二百名ノ入學ヲ許ス至急申込アレ

芝南佐久間町二丁目一番地

私立 **東京女學**

校長 伯爵 庭田胤子

女生徒募集廣告

一月八日ヨリ始業ス因テ本科豫科ヘ入學ヲ許ス學科ハ内外國教師十名ニテ和漢學英學其他普通學ヲ教授ス規則書望ノ方ハ郵券二錢送附アレバ是ヲ呈ス

芝區白金猿町五十三番地

私立 **頌榮女學校**

發兌

一月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
二月。	二日	九日	十六日	廿三日	
三月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
四月。	六日	十三日	二十日	廿七日	

定價

一册。六錢 郵税。一錢 (但府内無郵税)

十册。五十八錢郵税。十錢 (同前)

半年分	一圓四十三錢	府外は	一圓六十九錢
一年分	二圓六十錢	府外は	三圓十二錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲する分に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行	一回 (廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上に	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は無代價にて引受く女學に關係ある書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すへし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殘々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町國々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區[illegible]町長明堂○同京橋區木挽町四丁目文字堂○同本郷區元富士町[illegible]堂○同本郷區[illegible]町六丁目[illegible]堂○同日本橋區[illegible]○同[illegible]太田町三丁目萬字堂○同[illegible]月[illegible]の出版○京都四條通[illegible]○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボロ[illegible]○大坂[illegible]○同[illegible]○仙台[illegible]○大阪[illegible]○[illegible]○上州[illegible]○土佐國高知[illegible]○[illegible]○相州小田原[illegible]○熊本文明堂

明治二十二年一月十一日印刷
明治二十二年一月十二日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHÔ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.